

国際理解教育

地球市民を地域とともに育てよう part 4

報告書

ち しよくじ
カルタ “わたしん家の食事から”

学校 & 地域でつくろう 多文化共生社会



(財) 滋賀県国際協会

はじめに

(財)滋賀県国際協会では、平成 14 年度より「国際理解教育協働推進事業」に取り組んできました。なかでも、参加体験型の学習の必要性、重要性を強く訴えかけるため、ワークショップの開催や滋賀県の現状にあわせた教材づくりなどに重点を置いています。この背景には、人や物の世界的な相互依存、国際化の進展や、滋賀県における外国人登録者数が 29,995 人(平成 17 年 12 月末現在)となり、46 人に 1 人が外国籍住民という現状を鑑み、国際社会の一員であるという意識の向上や多文化共生社会づくりに向けて教育分野からの取り組みが必要であると感じてきたことにあります。

当協会に事務局を置く「国際理解教育研究会 Glocal net Shiga」は、昨年、滋賀県に暮らす外国籍住民の第 1 位であるブラジルに焦点をあてた「国際理解教材 ブラジルボックス」を作製し、出前講座を実施しました。平成 17 年度は、県内 121 の小中学校に日本語指導が必要な外国人児童・生徒 676 人が在籍し、彼らの多くが学校給食になじめずに困惑しているという相談が数多く寄せられていることなどを受けて、私たちの日常生活に身近な「食文化」を題材に、世界の食文化の多様性を学ぶと同時に、食文化の違いを知り、学校給食を食べられない外国人児童・生徒への理解を深めることをねらい、「カルタ “わたしん家の食事から”」を作製し、広めてきました。

フランスで起こったアラブ系青年たちによる暴動や、長浜市での外国籍の母親による幼稚園児殺害事件などは、皆さんの記憶に新しいことと思います。なぜ、このようなことが起こってしまったのか。私たちになにができるのか。私たちは、こうしたことも頭の片隅に置きつつ、これからも国際理解教育の必要性を提唱していきたいと考えています。

この報告書では、「カルタ “わたしん家の食事から”」および平成 17 年度に実施したワークショップの成果についてまとめました。学校や地域での取り組みの一助となることを願っております。

(財)滋賀県国際協会

目次

はじめに	1
------------	---

国際理解教育教材 カルタ “わたしん家の食事から”

●「カルタ“わたしん家の食事から”」	3
●各国の料理紹介	4
●食文化事情インタビュー	6
●アクティビティ紹介	12
●出前講座	14

実績報告

●国際理解教育公開ワークショップ	15
------------------------	----

平成18年2月26日(日)

「カルタ“わたしん家の食事から”」を通じて多文化共生を考える

午前の部 公開！「カルタ“わたしん家の食事から”」 国際理解教育研究会 Glocal net Shiga

午後の部 学校 & 地域でつろう 多文化共生社会

国際理解教育センター事務局長 角田 尚子さん

主催：(財)滋賀県国際協会 共催：国際理解教育研究会 Glocal net Shiga 後援：滋賀県青年海外協力協会

●国際理解教育ワークショップ	29
----------------------	----

平成17年8月9日(火)

地球市民を地域とともに育てよう Part 4

子どもの人権ファシリテーター 浜田 進士さん

～当たり前ってなんだろう？ アジアの子どもたちに学ぶ生きる力～

主催：(財)滋賀県国際協会 共催：独立行政法人国際協力機構大阪国際センター、国際理解教育研究会 Glocal

net Shiga 後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、滋賀県小中学校国際理解教育部会、滋賀県高等学校国際教

育研究協議会、(特活)開発教育協会、滋賀県青年海外協力協会

資料

●国際理解教育研究会 Glocal net Shiga	45
●滋賀県における外国人登録者数	47
●国際理解教育・開発教育貸出教材	48
●関連新聞記事	57
●カルタ制作にご協力いただいた方々	60

国際理解教育教材
カルタ “わたし^ちん家^{しよくじ}の食事から”

「カルタ “わたしん^ち家の食事^{しょくじ}から”」

滋賀県に住む外国籍住民の協力のもと、
国際理解教育研究会“Glocal net Shiga(ぐローかる ネット し が)”が国際理解教育教材を作りました。

このカルタは、身近な食文化に焦点をあて、ゲーム遊びを通じて多様な文化に遭遇するとともに、社会的少数者の立場を疑似体験できるように工夫されています。使い方次第で自国の独自性や特異性を見い出したり、学校給食などで日本の食文化を受け入れられず困惑している外国籍の児童生徒の気持ちを理解したりするきっかけになれば、と生み出された“Glocal net Shiga”オリジナル教材です。

ぜひ総合的な学習の時間や公民館講座などの国際理解教育の場でご利用ください。



情報カード



質問カード・答えカード

- 対 象 : 小学4年生以上の総合的な学習の時間(国際理解教育)
人権教育、教職員研修、PTA研修、公民館講座 など
- セ ッ ト 内 容 : 情報カード・質問カード・答えカード・解説書(各国料理レシピ付)
- 協力国・地域 : 中国(北京・湖南省)、韓国、台湾、バングラデシュ
エジプト、イタリア、ドイツ、アメリカ、ニュージーランド
ブラジル、ペルー
- 販 売 価 格 : 1セット 1,000円

教材開発のきっかけ

(財)滋賀県国際協会は滋賀県内に住む外国籍住民の増加を受けて平成14年度より行政機関と民間団体が一緒になり、外国籍住民が安心して暮らせる地域づくりを目指してきました。その話し合いの場で母国とは異なった文化や言葉、教育制度により困難に直面している外国籍の子どもたちの課題解決が必要とされました。そして、自分達と違う食文化に戸惑う子ども達、給食になじめない子ども達の「食文化の違い」から起こる文化摩擦を考えるとともに、日本独自の食文化を見つめ直す機会となる教材の必要性が挙げられました。そこで滋賀県内で国際理解教育について勉強会を重ねてきた国際理解教育研究会 Glocal net Shiga(ぐローかる ネット し が)が滋賀県内に住む外国籍住民の協力のもと、食文化についての教材を開発することとなったのです。

各国の料理紹介

教材をつくるため、まず、滋賀県に住む外国籍住民と一緒に各国の料理を作ることから始めました。
ここに、各国の料理と2回にわたるインタビュー結果をまとめました。



王 貴勤さん(中国:北京)

- 肉まん
- きゅうり
- 卵スープ



劉 麗芬さん(中国:湖南省)

- 紅焼肉
- 油淋紅椒(赤ピーマン炒め)
- 涼拌菜(中華風サラダ)
- 肉炒扁豆(サヤインゲンと豚肉炒め)



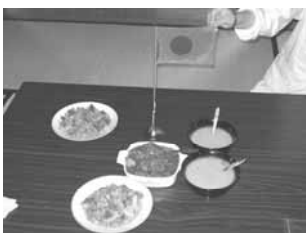
久保 恵卿さん(台湾)

- 豚バラ肉の醤油煮
- 五目焼きビーフン
- 大根と肉団子のスープ
- 小松菜とモヤシの野菜炒め



姜 智娜さん(韓国)

- キムチチゲ
- チャプチェ
- わかめスープ
- チヂミ(ニラ焼き)



ナヒド ルマナさん(バングラデシュ)

- 野菜のカレー
- 鶏のカレー
- 豆のスープ





エサム モハメド アブデラリムさん(エジプト)

- エジプト風に炊いたごはん
- ミートスープ
- 牛肉とグリーンピースのトマト煮



カヴェリエレ パオラさん(イタリア)

- トマトとモツアレラチーズのサラダ
- スパゲッティペーストジェノベーゼ
- ティラミス



シュテファニー アルントさん(ドイツ)

- ジャガイモサラダ
- ブレッテン
- クッキー



クリストファー キャンベルさん(アメリカ)

- チリコンカルネ



ブルース マアウガさん(ニュージーランド)

- フィッシュ&チップス
- パブロバ



奥村 ルシア 克子さん(ブラジル)

- アホース テンペラート(ピラフ)
- フェイジョン トロペイロ(豆の煮込み)
- コウベ フェホガード(野菜の細切り炒め)
- アホース ドセ(ライスプティング)



トレス 谷口 デボラさん(ペルー)

- パパ ア ラ ウアンカイーナ(ポテトの前菜)
- セビーチェ(ペルー風マリネ)
- アローズ コン ポヨ(鶏の炊き込みごはん)
- チチャモラーダ(紫トウモロコシのジュース)



食文化事情インタビュー

国・地域名	中国(北京)	中国(湖南省)	台湾	韓国
氏 名	王 貴勤	劉 麗芬	久保恵郷	姜 智娜
簡単なプロフィール	中国吉林省出身 3人家族 夫は会社員で北京駐在 娘は膳所高校を卒業してアメリカ合衆国に留学中 来日して10年 中国語をマンツーマンで教えたり国際協会のボランティアをしている。	6年前に中国湖南省から日本に 来た。湖南省では、父・母・3人の兄とともに暮らしていた。結婚を機に、日本で働くつれ合いさんの所に来ることとなった。 今は、子ども2人をもうけ4人暮らし。	台湾の台北市出身。 現在は、大学生の息子さんと日本人の夫との3人暮らし。日本に来てからもう24～5年。	家族 夫 子ども2人 現在 北大津高校で韓国語講師、大津・草津等で韓国語講師、多言語情報誌「みみタロウ」韓国語翻訳
1)あなたの国の主食は？ また主食の調理法は？	米、ご飯	米。日本と同じように炊く。	米。日本と同じように炊く。	米。日本と同じように炊飯する 白米だけでなく、麦や粟などの入った雑穀ごはん
2)食べないもの・食べられないものはありますか？ その理由は？	生魚・生卵	刺身のような生ものは口にしない。野菜もサラダのような生野菜は食べず、必ず火を通す。	個人的に食べないものは、信仰上の理由で牛肉。	基本的に食べられないものはない。
3)食事をするときには、何を飲みますか？	スープ、おかゆ、お茶	ウーロン茶・ジャスミンティー	スープがあるので、何も飲まないが、お茶を飲む時もあります。	食事中はスープ、水を飲む。(麦茶やコーン茶などもある。)
4)食事をするときは、何を使って食べますか？	箸とれんげ	箸・れんげ	箸・れんげ	箸……おかず スプーン……ごはんやスープ
5)食事の前後にするあいさつはありますか？	「じゃあ、食べましょうか」と挨拶をする	特にありません。	家族に「ごはんですよ」と声をかけ合い、親がまず座り(親が座らないと他の人は座りません)、みんながそろったら、食べ始める。	食前 チャルモッケ スムニダ(ありがたいいただきます)食後 チャルモツスムニダ(ありがたいいただきました)挨拶の時に、手を合わせたりはしない。
6)食事をするときのマナー、作法はありますか？	客がある場合は客、配偶者に食べる速さを合わせて食べる。器を手に持って食べ、犬食いはしない。口の中に食べ物を入れて喋ったり、テレビを見ながら食べることはしない。	おかずを取るときは、他の人と手がお差してはいけない。ご飯などに、お箸を立ててはいけない。	ひじをつかない、音をたてない、よくかんで食べる、お茶碗をもって食べるなど。	目上の方が食べるまで待つ。目上の方というのは、年齢や役職(男女は関係ない)茶碗を持ち上げない。ひじを付かない。口の中にもものを入れてしゃべらない。
7)家族の中で、誰が食事を作りますか？ 誰が片付けますか？	私たち夫婦は同級生であったので、夫婦で食事を作る。	食事は、一般的にお母さんの仕事。共働きの家族が多いので、片付けは子どもの仕事。	母親が食事を作る。片付けるのは子ども。	お母さんが主。共働きの場合は、交代でする場合もある。
8)誰と一緒に食事を食べますか？	家族そろって	ほぼ毎日、6時から6時半頃に、家族みんなで食卓を囲む。	家族みんなで食べる。もし、仕事が遅いなどで食べられない時は、必ず連絡をする。	家族みんなで食べる
9)食事のとりわけ方を教えてください。	リビングの円卓の上に大皿盛り、取り分けていく。	大皿に盛ったおかずをご飯の上にとって食べる。	食事は、大皿から自分の食べる分をとって食べる。	大盛りにして、じかばし、じかスプーンで食べる。取り皿などはあまり使わない。
10)食事をするときの座る場所、座り方を教えてください。	きまりはない		丸テーブル(回転式)の上の方に父親が座る。父親の決まった好きな場所があれば、別に上とは決まっていません。	いすで食べることが多い。お父さんの場所は決まっていて、お父さんを中心に丸く座る。ドアから入って一番奥が上座である。
11)調理をする場所と、食事をする場所は同じですか。	別 食事はリビングで	調理するところは、食事の部屋とは別。	調理をする所は台所で、食事をする所は食堂。	家の構造によってちがうが、近いところにあるのが多い。
12)一日の中で、中心(メイン)の食事は、朝・昼・夜のどれですか？	昼は1日の中心となる食事。炒め物料理を3～4品とスープ。	夜	夜	夜が中心 朝……パンやごはんなどで軽く。 昼……単品が多い。 夜……ボリュームがあり、いろいろなおかずを置いてしっかり食べる。
13)いつ家族と一緒に食事をしますか？	3食とも	毎日家族で食べる。春節(旧暦の正月)や祭り・清明節(3月4日)	夜	朝と夜

国・地域名	中国(北京)	中国(湖南省)	台湾	韓国
氏 名	王 貴勤	劉 麗芬	久保恵郷	姜 智娜
14)一日何食、食べますか？	3食	3食	3食	3食
15)おやつは一日何回食べますか？ どんなおやつがありますか？	日本のおやつに相当するものはない。	おやつ時間は決まっていないが、食べたいときに食べる。	おやつは、あまり食べないが、いただくとしたら、果物。	おやつ時間というのは、決められていない。食べたいときに食べる。おやつというのは、子どもが食べるものである。
16)食事が残ったら、どうしますか？		残ることがあれば、翌日食べるが、野菜は調理したときに食べきってしまう。	食事が残ったら次の日にあためて食べる。お弁当のおかずにもすることもある。	冷蔵庫で保存する
17)作り置きはしますか？		作り置きはしない。	煮物などのおかずは、作り置きをする。	チゲなどは、火を通せば腐らないので、3日間ぐらい食べられる。
18)保存食はありますか？		漬物を瓶に入れて保存することはある。	保存食はあるが、今はもうあまり作られていない。お年寄りのいる家などだけで作られている。	保存食としては、キムチ、豆、小魚、漬け物、のりなど多くある。
19)冷凍文化はありますか？		冷凍する習慣はない。	冷凍文化もある。	
20)食事をするテーブルなどに、いつも置かれている調味料はありますか？	醤油	ない	ない	ない
21)調理によく使う調味料(スパイス)は何ですか？	醤油、塩、八角、胡椒、味の素、ニンニク、生姜、豆板醤	塩、しょうゆ、油、味の素、とうがらし	塩、こしょう、しょうゆ、豆板醤、ごま油、味の素	塩 とうがらしの粉 とうがらしのみそ(コチュジャン)
22)調理をするときには、どんな服装をしますか？	エプロン 油をよく使うので。	エプロン	エプロン	エプロン
23)食材は、どうやって入手しますか？	住居の近くの朝市で	市場には、新鮮なものが売られ、一つずつ選んで買える。肉は固まりで買い、薄切り肉は売っていない。	市場で手に入れる。野菜をたくさん買うので、もち手として子どもを連れて行く。	市場やスーパーなどで買う。
24)学校の昼ごはんは、どのように食べますか？	子どもが学校に行っていたときは、国の「一人っ子」政策として会社も事業所も12時で仕事を中断し子どものために家に帰り食事の支度をする。	食堂で食べたり、お弁当を持ってきたりして食べる。	学校の昼ごはんは、家の人が送り弁当をする。もし、家の人を持っていけない場合は、本人がお弁当をもっていく。学校にある蒸し器であたためる。	給食(幼稚園・小・中・高)
25)「ミルク」と聞いて、何の動物の乳を思い浮かべますか？	牛	牛	牛	牛
26)調理をするときの燃料は何ですか？	プロパンガス	以前は、石炭、今はガス。	都市ガス	ガスや電気
27)病気のときには、どんなものを食べますか？	柔らかいあっさりとしたもの。おかゆは、塩を殆ど入れない粟米のおかゆ。	砂糖や塩で味付けしたおかゆ、ワンタン	おかゆ、果物	おかゆ
28)赤ちゃんの離乳食には、どんなものを食べますか？	茶わん蒸し、肉・ほうれん草などの野菜を刻んだおかゆ	米粉のおかゆや卵を茶碗蒸しのようにしたもの食べさせる。	おかゆ、おじや、ベビーフード、ジュース、スープなど。スープにたっぷりと具を入れるので、赤ちゃんの検診の時、保健婦さんからこの離乳食で栄養は十分と、おすみつきをもらった。	半流動食を作る。リンゴなどをすり下ろしたものなども 薄味に仕上げる。
29)ぜんざい(甘い豆)を食べた感想	最初は甘すぎました	とてもおいしかったです。	あまい！	甘い！ 韓国にもあずきのおかゆがあり、大晦日に食べる。パッチュク
30)その他			日本食を食べはじめた最初の頃の印象は、味が塩からいものが多かった。	

国・地域名	バングラデシュ	エジプト	イタリア	ドイツ
氏 名	ナヒド ルマナ	Essam Mohamed Abdelalim	PAORA CAVALIERE	シュテファニー アルント
簡単なプロフィール	バングラデシュ ダッカ(首都)出身 夫と息子の3人家族 2003年6月に来日、2004年12月～2月には帰国していた。	滋賀医科大学のドクター 9ヶ月前に来日 妻と子どもの3人暮らし 生理学の勉強のために、 2009年4月まで滞在予定。	イタリア ヴィネト州 家族 イタリアでは独り暮らし 実家(父・母・妹)6人兄弟(姉・姉・姉・兄・パオラさん・妹)・日本に来た記録 91年 東京に3ヶ月語学留学 94年 大学卒業後に9ヶ月 97年2ヶ月 01年半年 東京大学研究生(日本の新仏教) 04年月より安土町国際交流員	ドイツの南のバイエルン地方出身で、両親・妹・私の4人家族 日本に11ヶ月滞在
1)あなたの国の主食は？ また主食の調理法は？	米 水で炊く。	米。米を少し茶色になるまで炒め、生米と一緒に炊く。米と一緒にミルクを入れ、バターとともにオーブンで焼くこともある。	パン(バケットをそのまま)とパスタ(塩でゆでてソースをつける)	肉・ジャガイモ・パン
2)食べないもの・食べられないものはありますか？ その理由は？	アルコール、豚肉は禁止。イスラム教のコーランに禁止と書かれているから。	豚、鶏肉は食べない。イスラムの特別な処理をした牛肉しか食べない。生魚も食べない。	食べないもの 肉類(基本的にベジタリアンだから。でも、イタリア人が全てベジタリアンではなく、個人の自由)→代わりに豆を多く食べる 食べないもの 納豆・フナずし	食べられないものはない。
3)食事をするときには、何を飲みますか？	水	ほぼ毎日、ミルクを飲む。ジュース、コーラ、コーヒー、紅茶も飲む。	水かワイン(18歳以上) お茶は、毎食後とティータイムに紅茶を飲む	ジュース
4)食事をするときは、何を使って食べますか？	右手	スプーン、フォーク、ナイフ	フォーク・ナイフ・スプーン (日本では箸)	スプーン・フォーク・ナイフ
5)食事の前後にするあいさつはありますか？	ビスミッター・ヒル ロホマーニロヒン(アッラーの名のもとに食事を始めます)という意味。	食事の前に、アラーの神に祈る。食後は、「神様、ありがとう」という。	BUON APPETITO:ブオン アッペティート(いただきます) GRAZIE:グラチエ(ごちそうさま、ありがとう)	食事の前にお互いにGUTEN APPETIT:グーテン アペティート(さあ、めしあがれ)と言う
6)食事をするときのマナー、作法はありますか？	右手の指だけで食べる。手のひらまで使わない。たくさんおしゃべりするのは良くない。食べている人に対して「サラーム」(イスラム教の挨拶)はしてはいけない。また、食べている人も「サラーム」はしない。	日本と同じで、肘をつくのは行儀が悪い。音も立てない。	音をたてない。食べながらしゃべってはいけない。お皿はテーブルの上に置いたまま。	ひじを付いて食事することはマナー違反
7)家族の中で、誰が食事を作りますか？ 誰が片付けますか？	料理は母親。バングラデシュで生活しているときは、家事手伝いで雇っている女性がする。	妻が料理も片付けもする。私は、サラダを作ることはある。	作る人 お母さん 片づける人 兄弟で順番に	父親以外
8)誰と一緒に食事を食べますか？	家族みんなで	妻や家族と食べる。エジプトでは、母や兄弟とも一緒に食べていた。	朝はばらばらに食べる。(小学校では昼に家に帰って食べるので) 昼。夕はお母さんと兄弟。日曜は3食家族と食べる。	平日は、3食とも家族はバラバラに食事
9)食事のとりわけ方を教えてください。	おかずの種類だけ、大きなお皿にそれぞれ盛りつける。自分のさらにはご飯があり、そこへ自分の食べたいおかずを、食べたい量取る。	妻が、大皿に入っている料理を個々に取り分けてくれる。おかわりは、自分でよそうこともある。	1人1人個別に分ける。	なべから自分の皿に取る。
10)食事をするときの座る場所、座り方を教えてください。	テーブルとイスに座わる。好きな場所に座わる。	キッチンテーブルを囲んで食べる。家族一人ひとり席が決まっている。	座る場所 始めに1回座った場所が習慣化する 座り方 テーブルといす	テーブルに座る位置は決まっています
11)調理をする場所と、食事をする場所は同じですか。	別々。食べる部屋、寝る部屋、くつろぐ部屋、それぞれ分かれている。	普段は、調理する場所と食事の場所は同じだが、来客のときは、ダイニングで食べる。	家の間取りによって異なる。キッチンとテーブルが同じ部屋にある(オーソドックス)。カウンターで分かれているところ。キッチンと別室(お金持ち)	台所で作り、ダイニングルームで食べる
12)一日の中で、中心(メイン)の食事は、朝・昼・夜のどれですか？	昼が一番よく食べる。夜も昼と同じくらいのおかずがあるが、9時か10時ころなので、そんなにたくさん食べない。	昼	仕事をしている人は、夕食 家族でいる日(土日) 昼食	昼食 昼食として何か温かいものを食べますが、朝食・夕食は冷たいもの、火を使わない料理で済ませる伝統
13)いつ家族と一緒に食事をしますか？	3食とも	いつも家族と一緒に	土日 クリスマス・イースター(祝日) ☆クリスマスは必ず家族	週末に家族がそろって食事をする。

国・地域名	バングラデシュ	エジプト	イタリア	ドイツ
氏 名	ナヒド ルマナ	Essam Mohamed Abdelalim	PAORA CAVALIERE	シュテファニー アルント
14)一日何食、食べますか？	3食	3食	3食(今は、忙しすぎてお茶の時間もない) 食後はコーヒー	3食
15)おやつは一日何回食べますか？ どんなおやつがありますか？	午後5:00～6:00くらいに食べる。ビスケット、ピター、シンガラ、ダールプリー、カバブ、ミステイー、スナックなどと紅茶ほとんど母親の手作り。	ジュースやアイスクリームを食べたり、ガトーというケーキを食べる。	ポテトチップス、フルーツタル、フルーツヨーグルト☆ティラミスはお菓子でなく、デザート	食事の合間の午後5時くらいに、コーヒーアワーがあり、おやつはケーキ、アイスクリーム、クッキー、果物を食べる。
16)食事が残ったら、どうしますか？	冷蔵庫に入れて、翌日食べる。	次の食事の時間に食べることもある。	冷蔵庫に入れて後日食べる。	タッパに入れ、保存し、次に食べる。
17)作り置きはしますか？		作り置きはする。	基本的にその食事で食べきれない分しか作らない 作り置きをするもの……パスタのソース・ピクルス(そのまま冷蔵庫で保管)	
18)保存食はありますか？	アイス、ピターはダッカでは売っている。	保存食は、オリーブやオレンジ、グレープを保存したり、ジャムにしたりする。他には、塩茹で、魚は缶詰にする。		
19)冷凍文化はありますか？	冷凍のおかずなどは無い。ピクルスは売っている。アチャールという漬物はある。(マンガ、オリーブ、リンゴ、レモン、ブルーンを漬けた物で、家庭で作る)	冷凍は、素材そのものを冷凍して使う。	冷凍食品はあるけど余り使わない	ある
20)食事をするテーブルなどに、いつも置かれている調味料はありますか？	塩、水	塩、黒こしょう、ケチャップ	塩・こしょう・オリーブオイル	必要な調味料は棚から取ってくる。
21)調理によく使う調味料(スパイス)は何ですか？	タマネギ、油 中国風麺を作るときは味の素も使う。	塩、こしょう	塩・こしょう・バジル・オレガノ	ニンニク・パプリカ・胡椒・塩
22)調理をするときには、どんな服装をしますか？	何もしない。	エプロン	何もしない。	エプロンはあるが、あまり身につけない
23)食材は、どうやって入手しますか？	生もの市場(コラバザール)で野菜、鶏、魚、肉など何でもある。鶏は生きたまま、魚は冷蔵、冷凍はしていない。牛肉、羊肉などは店頭で屠殺して大きな肉がぶら下げている。	大型の市場へ出かけ、新鮮野菜を買う。	スーパーで週に2回買い物をする☆タイム・オレガノ・バジル・ミントはよく使うので植えている	スーパーマーケットで買う
24)学校の昼ごはんは、どのように食べますか？	7歳までは8:00～13:00なので、10:00にティフィーという軽食を食べる。 8歳以上は11:00～17:00までなので、15:00にティフィーを食べる。	2時に学校が終わるので、帰宅してから食べる。小学校は給食。	小学校 家に帰って食べる 中学校 給食(ベジタリアン用はなく、みんな同じメニュー)	小学生の昼ごはんは家に帰ってから食べる。高校はパンを持って行く。
25)「ミルク」と聞いて、何の動物の乳を思い浮かべますか？	牛、粉ミルク	牛	牛	牛
26)調理をするときの燃料は何ですか？	ガス	ガスが多いが、電気も使う	ガス・電気	電気
27)病気のときには、どんなものを食べますか？	鶏のスープ、果物、ホリックスというウモロコシの粉にミルクか水を混ぜて、柔らかくしたもの、お粥	牛肉と玉ねぎ、トマトをスープにして、塩、こしょうで味付けしたもの。熱があるときは、油っぽいものを避け、ゆでたものを食べる。	おかゆ(インディカ米を塩でぐだぐだにゆでる)	ハチミツ入りの温いミルク(もちろん牛の乳)、マッシュポテト、マッシュバナナ
28)赤ちゃんの離乳食には、どんなものを食べますか？	キチュリー(ごはんと豆、野菜と油と一緒に水で炊いたもの)で、塩やスパイスなどの味付けはしない。	ゆで卵とジャガイモをマッシュしたもの	おかゆ、野菜スープ(野菜をゆでて、つぶして、スープに混ぜる)、すりおろしりんご	瓶入りの離乳食
29)ぜんざい(甘い豆)を食べた感想	おいしかった		イメージとして豆はスープや副菜に使うので甘いことに驚いた。でも、おいしかった。	
30)その他	日本人はなぜいつもお茶を飲むのですか？		日本を選んだ理由①サービスがいい②ルールがしっかりとしている←イタリアではよくストライキが起こった	

国・地域名	アメリカ	ニュージーランド	ブラジル	ペルー
氏 名	クリストファー キャンベル	ブルース マアウガ	Lucia Katsuko Okumura	トレス・谷口・デボラ
簡単なプロフィール	アメリカ ワシントンD.C.家族 父、母、自分、妹 4人家族 来日は 学生(20歳)の時に 1年間留学、22歳の時に3ヶ 月、23歳から滋賀県で国際 交流員として2年間滞在	ニュージーランド出身で、現在は 近江八幡市に在住。 2000年～2001年 日本に留 学。2001年2月に帰国。 2002 年8月から日本へ。 父・母・兄・姉・兄・本人の6人家 族。25歳。	両親が戦後10年ほど経った時、 山口県からサンパウロに渡った。 ブラジルでは、兄弟と5人で暮ら していた。成人して国家公務員と して働いていたが、実家の山口県 を訪れたときに今のつれ合いさん と出会い結婚。今は、夫・小学5 年生の息子の3人暮らし。日本に 来て16年。	ペルーのリマ出身で、6人兄弟。現 在は、小学2年生になる息子さんと2 人暮らし。日本に来てからもう14 年。
1)あなたの国の主食は？ また主食の調理法は？	基本的には野菜、ジャガイ モ、肉が食事には必ず付く。 調理方法はオープンで焼く、 炒める。	特にない。(米・パン・ジャガイモ・ サツマイモ・タロイモなど)	一般的には、5種類ほどの豆(カリ オカや黒豆)とタロイモとインディカ 米	米やじゃがいも。地方によって違う。
2)食べないもの・食べられない ものはありますか？ その理由は？	生ものはたべない。ただし、生 牡蠣だけは食べる。特に生卵 は食あたりすると、母から教え られて育った。	食べたくない → 納豆(食べよ うとしない)	特に制限はない。また、タコは抵 抗がある人が多く、気温が高いこ ともあり、魚などを生で食べる習 慣はない。	個人的に食べないものは、魚。にお いが強い。でもペルー料理のセ ビーチェ(ペルー風マリネ)の魚は食 べる。
3)食事をするときには、何を 飲みますか？	水 子どもの頃は牛乳	水かフルーツジュース	フルーツジュースやガラナジュ ース・コーラなどの炭酸ジュースをよく 飲む。	コーラ、インカコーラなどの炭酸や水
4)食事をときは、何を 使って食べますか？	ナイフ、フォーク、スプーン 中華料理を食べるときは箸	フォークとナイフ 時々、箸(中華料理など)	ナイフとフォーク。スープの時 には、スプーンも。	フォーク
5)食事の前後にするあいさつ はありますか？	みんながそろって食べるとき に、父か母が「さあ食べましょ う」という。	しない。作った人に「ありがとう」と 言う。	Bom Appetite:ボン アペチテ(食 欲がよい)Estou Satisfeita:エス タティスフェイタ(もう満腹)	神(カトリック)に祈る。
6)食事をするときのマナー、 作法はありますか？	テーブルに肘、腕、手などは つかない。皿は決して持ち上 げない。基本的には片手で食 べる。手をのばして遠くの調味 料を取ってはいけない。近くの 人に言って取ってもらう。クロ スは膝に置いて食べる。食べ るときに音はたてない。	人の前に手を出さない。 スープ・麺は音を立てない。	スープを飲むときに音を立てな い。食器は手に持たずに食べる。 げっばは、とても失礼。	ひじをつかない、音をたてない、ちゃ んとすわる、たち歩かないなど。
7)家族の中で、誰が食事を 作りますか？ 誰が片付けますか？	食事は母が作る。片づけはみ んなです。食器洗い機があ るので、各自が食器洗い機に 入れる。	父と母が交代で。(共働きだっ た)退職後は父がやっていた。兄 弟も作っていた(fish&chipsが多 いが…)・片付けは子ども。	一般的に、母親。後片付けは、子 どもも父親も手伝う。	母親が食事をを作る。片付けるのも母 親。
8)誰と一緒に食事を食べま すか？	朝は出勤や登校時間に合わ せて、バラバラ。昼は各自職 場や学校で食べる。夜はみん なそろって食べる。	時間が合えば(みんなで住んで いるときは)みんなで。1人分を 作るのは難しい。	朝は、家族でフランスパンとカフェ オレ。共働きなので後は、みんな そろえることは難しい。	家族みんなで食べる。
9)食事のとりわけ方を教えて ください。	一皿にメニュー1人分を全て 盛りつける。大家族などは大 皿から各自が取って食べるの が一般的。	1つのプレートに、テーブルの大 皿から取る。	大きなお皿に盛った料理を自分 の一枚の皿に必要なだけのせて 食べる。	食事は、最初から取り分けてある。
10)食事をするときの座る場 所、座り方を教えてください。	普段は丸いテーブルで食べて いて、最初に座って決まった 位置が自分の席で、毎回同じ 席に座る。	テーブル。 Fish&chipsは床で新聞紙をひい て。	どこに誰が座るかは決まってい ない。皿一枚なので、食卓から違う 場所に移動することもある。	テーブルの短い方に家族のえらい人 が座るようになっている。
11)調理をする場所と、食事を する場所は同じですか。	台所の隣にダイニングがある。 しきりはないが、部屋としては 別の部屋。	ちがう。キッチンとダイニングルー ムにわかれていた。(各家庭によ る。)	台所では、お茶やおやつを食べる ことはあるが、普段は別にある食 堂で食べる。	調理をする所は台所で、食事をする 所は居間。
12)一日の中で、中心(メイン) の食事は、朝・昼・夜のどれで すか？	夜	夜	昼にたっぷり。仕事をしている人 は、会社やその近くのレストランで たっぷり食べる。子どもは、母親あ るいはメイドさんが作ったものを食 べる。夜は、サンドイッチやピザ・ パンとスープなどを軽く食べる。	朝と昼であつたり、昼と夜であつたり。
13)いつ家族と一緒に食事をし ますか？	夜(ほぼ毎日)	夜。朝も一緒に食べることはよく ある。	日曜日の昼は、家族や親戚が集 まってゆっくりと	昼

国・地域名	アメリカ	ニュージーランド	ブラジル	ペルー
氏 名	クリストファー キャンベル	ブルース マアウガ	Lucia Katsuko Okumura	トレス・谷口・デボラ
14)一日何食、食べますか？	3食	3食	3食	3食
15)おやつは一日何回食べますか？ どんなおやつがありますか？	とくに何回とは決まってい ないときは捨てる。レストラン では持ち帰る。	2回(morning teaとafternoon tea)・夕食のあと、supperをと ることもある。	昼食や夕食の後にデザートをよく 食べる。	1日1回、手作りのデザートを食べ る。
16)食事が残ったら、どうしま すか？	冷蔵庫で保存して食べる。少 ないときは捨てる。レストラン では持ち帰る。	次の朝に炒めて食べるなど。(ラ イス→炒飯、イモ→ポテトチップ ス)	残す習慣はないので、残らないよ うに作る。	食事が残ったら次の日に食べる。
17)作り置きはしますか？		時々する(ローストビーフのような もの、チキンライス)	温め直す習慣がないので、作り置 きはしない。	作り置きはしない。
18)保存食はありますか？	ピクルスなどは買う。	缶詰スパゲッティー・コーンビー フ	保存食は、ビーフジャーキーやコ ンポートジャムそして燻製・肉の 塩漬けがある。	保存食はピクルスのようなものがあ る。
19)冷凍文化はありますか？	冷凍食品はいろいろある。	肉など(食材として) 作って冷 凍することはない。	最近、冷凍もするようになった。	冷凍文化もある。
20)食事をするテーブルなど に、いつも置かれている調味料 はありますか？	塩、こしょう、タバスコ	塩・こしょう ポリネシア系… しょうゆ	ない	とうがらしや塩
21)調理によく使う調味料(ス パイス)は何ですか？	塩、こしょう その他、食べ物 によって様々。	しょうゆ ハーブ ス パイス	ほとんどの料理に、塩・こしょう・ニ ンニクが入っている。	にんにく、玉ねぎ、味の素、パク チー、コリアンダー、アヒバンカ、アヒ ヤマリージョ
22)調理をするときには、どん な服装をしますか？	エプロン	何もしない。	何もしない。	何もしない。
23)食材は、どうやって入手し ますか？	スーパーで買うが、小さな産 地直送市場でも買う。 庭ではトマトやスパイス、ハー ブなどを育てている。	スーパー(食材によって、選ぶ)	週に一回、町の中で市場が開か れ、新鮮な野菜や果物を一週間 分買う。米や豆・油などは、スー パーで買う。	市場やスーパーで手に入れる。
24)学校の昼ごはんは、どのよ うに食べますか？	学校の食堂。(一般的にはお 弁当持参が多い。お弁当はサ ンドイッチ、リンゴ、ポテトチップ ス。)	家からサンドイッチ。自分の経 験談…アレルギーのため、サ ンドイッチは食べられなかった。学 校が注文を取ってくれて、お金を 払うと代表の生徒が学校から5 分くらい離れたお店に買いに 行ってくれた。	学校は、午前か午後だけなので、 昼食は家で食べる。	学校の昼ごはんは、家に帰って食べ る。もし、授業が午前中に終わら ない時は、売店で買うか、果物やサ ンドイッチを持っていく。
25)「ミルク」と聞いて、何の動 物の乳を思い浮かべますか？	牛	牛	牛	牛
26)調理をするときの燃料は何 ですか？	ワシントンD.C.では電気。ガス が多い地域もある。	電気(ガスが通っているのは、2 つの都市だけ)	ガスボンベを各家で購入。	ガス、灯油、薪
27)病気のときには、どんなも のを食べますか？	麦と牛乳をやわらかく炊いて、 蜂蜜を入れたお粥のようなも の。	チキンスープ 風邪には、ホットレモン	Canja de Galinha(カンジャデガ リンヤ)という鶏のささ身のおかゆ。	おかゆ、野菜スープ、おろしりんご(り んごと大根をおろしたものにはちみつ を入れる)
28)赤ちゃんの離乳食には、ど んなものを食べますか？	アップルソースみたいなもの。 野菜のペーストなどが売って います。	分からないが…バナナやりんご をシチューにしたもの(シチュー アップル)かな？	日本と似ている離乳食が、店で 瓶詰めになって売られている。	野菜スープの野菜をつぶしたもの、 レバーなども細かくしたもの。
29)ぜんざい(甘い豆)を食べ た感想	豆を使ったものは甘いとは思 っていないだったので、甘 かったことに違和感があった。	おいしい。ぜんざいを食べておも ちを食べられるようになった。甘 くておいしいと思った。	日系人は、子どもの頃から親しみ があるが、ほとんどのブラジル人 は、甘く味付けられた豆には抵抗 がある。	あまい！
30)その他				

アクティビティ紹介

「カルタ “わたしん家の食事から”」の活用例をご紹介します。

SAMPLE ① フォトランゲージ

対 象：小学1年生以上 人 数：少人数～

準備物：A4版料理写真、A3版料理写真、

- アイスブレイキング（場の雰囲気を和ませるもの）
- フォトランゲージ 配った写真を見てどんな料理か、どんな材料か、味はどうか、どこの国の料理か、をグループで考えてみよう！
- 発表＋解説

ニュージーランドの写真を見て、こんな意見が出ました！



命名！
からポテドリアと
フルーツクリームケーキ
どんな味がするかな？
からいあじ、ケーキはあまずっぱい
(小学2年生)

SAMPLE ② カルタ

対 象：小学4年生以上 人 数：～72人（1グループ6人、12グループまで）

準備物：質問カード、答えカード、情報カード

- アイスブレイキング（場の雰囲気を和ませるもの・・・P.15 参照）
- カルタ わたしん家の食事から
- ① 参加者が1グループ5、6人になるように分れる。
- ② 答えカードを各グループに配布し、カルタのように机の上に並べてもらうよう指示。
- ③ ルールを説明後、各グループに同じ情報カードを裏返して配る。
- ④ 参加者全員が情報カードを読み終えたことを確認する。
- ⑤ 質問カードを読み上げ、参加者は答えカードをとる。
- ⑥ 答えあわせをする。
- ⑦ グループのメンバーを入れ替える。1番多く答えカードを取れた人は時計回りに、2番目に多く答えカードを取れた人は反時計回りに隣のグループに自分の情報カードを持って移動。
- ⑧ もう一度質問カードを読み上げる。
- ⑨ 答え合わせ
- ふりかえり ゲームを通じて感じたこと、テーブルに残っているカードを見て話し合おう！
- 発表（P. 16 参照）

SAMPLE ③ カルタ+「情報カード 日本」の作成

対 象 : 中学生以上

人 数 : ~72 人 (1 グループ 6 人、12 グループまで)

準備物 : ワークシート「情報カード 日本」

- 「情報カード 日本」の作成
- 発表 (P.17 参照)
- ふりかえり

ワークシート
日本

私の名前は _____ です。
_____ で生まれ育ちました。
私の生家は _____ です。
どこを _____ します。
食事を食べる前には _____ とお話しします。
食事を食べる時には _____ を使います。
食事のときには _____ を一緒に飲みます。
一日の中で _____ を一番しっかり食べます。
私は食べられないものは _____
小学校のあちの日の誕生日は _____

(例)
- 食事をするとそのアサー、料理
- 誰か食事をやるか、片付けを
- 1つ、誰か一緒に食べるか
- おやつは
- 食事を食べた後、... など

私の今日の誕生日は _____ です。

SAMPLE ④ ロールプレイ

対 象 : 高校生以上

人 数 : 4 人~

準備物 : ワークシート「役割カード」

(ブラジル人女児エリカ、エリカの母親、エリカの担任の先生、外国人生活相談員)

- 役割カードを配り、同じカードの毎で集まり、役割・設定・情報を確認する。
- 役割を演じて話し合い。
- 役割を感じて自分が感じたこと、グループの他の人の発言を聞いて考えたことを話し合ってみよう。

ロールプレイについての情報は <http://www.s-i-a.oe.jp/glocalnetshiga/karuta.html> にて
随時更新します。

工夫次第で何通りにでも使える教材です。調べ学習につないだり、ゲストを迎えてオリジナル情報カードを作成したり、各国の米料理を作ってみるなど、授業の展開も様々な可能性があります。

出前講座

カルタが完成後、県内の学校等からの申請を受けて、出前講座を行いました。今後も講師派遣や教材の貸出を続けていきます。

●10年経験者研修「国際理解教育」

実施日:平成 18 年 1 月 17 日(火)

対 象:10 年経験者小中高・障害児教育

諸学校教員・養護教員・学校栄養職員 182 人

場 所:滋賀県立総合教育センター



●国際理解週間

実施日:平成 18 年 2 月 15 日(水)

対 象:小学 1～6 年生 319 人

場 所:木之本町立木之本小学校

●滋賀県青少年社会参加促進事業 交流会

実施日:平成 18 年 2 月 25 日(土)

対 象:事業参加者、他関係者 40 人

場 所:近江八幡市婦人会館

●国際理解教育・ワールドキャラバン

実施日:平成 18 年 3 月 10 日(金)

対 象:小学 4～6 年生

場 所:甲賀市立大野小学校



貸出実績 (H18 年 2～3 月)

●小学校:4 件、研修:1 件

アンケートより

- ☆ ゲームの中で自分の国の中に他国の方々が来られると不思議に思うことや文化の違いを感じる事が多々あることがわかった。(教員研修)
- ☆ (移動した後に)カードを取ったときに他の人と違うのをとってあっと思い不安になった。(教員研修)
- ☆ 国によって異なるので移動したときはカルタがいっぱい取れると思ったが共通する点もたくさんあった。(教員研修)
- ☆ カルタゲームで多くの情報カードはドイツでした。ドイツでは学校のある日、帰って昼ご飯を食べるからびっくりしました。ドイツの主食は肉類やジャガイモやパンだから日本とは少しちがうとわかった。食事を食べるまえには「ゲーテンアペティート」とドイツでは言うらしいです。日本とは全然違うと思った。(小学6年生男児)
- ☆ グループは変わらなかったけど、ドイツやブラジルなどいろいろな国の食文化がよくわかりよかったです。特に、自分の情報カードはよくゲーム中に見たので、覚えるつもりはなかったのにいつの間にか覚えられたのが一番よかったです。これからも他の外国のことを調べてみたいと思いました。(小学6年生男児)
- ☆ 日本との違いに驚く子ども、へーと感心する子ども、反応は様々でしたが皆とても興味を持って活動しました。(教員)

実績報告

「カルタ “わたし^ちん家^{しよくじ}の食事から”」 を通じて多文化共生を考える

2005 年度に **Glocal net Shiga** が作成した教材、「カルタ “わたし^ちん家^{しよくじ}の食事から”」を活用した公開ワークショップを実施しました。午後からは、ERIC 国際理解教育センターより事務局長 角田尚子さんをお迎えし、ワークショップを行いました。

午前の部

公開！ 「カルタ “わたし^ちん家^{しよくじ}の食事から”」

ファシリテーター(進行役): 市木尚利さん、河端さやかさん

(国際理解教育研究会 Glocal net Shiga 所属)

アイスブレイキング

聖徳太子ゲーム (20分)



★準備……

- ① 全体を 2 グループに分ける。
- ② それぞれのグループで 3 文字の食べ物「○△□」を考える。
例) りんご
- ③ グループの中で 3 チームに分け、食べ物の「○」「△」「□」のどの文字を叫ぶか担当を決める。
- ④ 2 グループそれぞれ 1 列に並び。
(5～6m 離れて)
- ⑤ 1 グループ毎に「○」「△」「□」をいっせいに叫び、相手グループはその名前を当てる。

「カルタ “わたしん家の食事から”」を通じて多文化共生を考える



この後、6 グループに分れ、P. 12 の内容でカルタを体験、ふりかえりを行いました。



【グループでのふりかえりより抜粋】

ペルーグループ

「国が違ってても共通点があるのがおもしろい」
「家族全員で食事をとることを日本も見習いたい」
「日本はカレーぐらいでしかじゃがいもを使わないが、ペルーは 100 種類以上の料理」
「“昼の食事” を大切にしているのが日本と違う」

アメリカグループ

「国の中でも地域によってちがうのではないかな」
→アメリカの主食は多様＝アメリカの多文化性を表しているのではないのでしょうか。

エジプトグループ

「食事中、ミルク、ジュース、コーラ、コーヒー、紅茶などを飲むという風にエジプトの飲み物は豊かだが、日本では何を飲むかな」

台湾グループ

「台湾の方が宗教上の理由で牛を食べないのは意外」「台湾の食事は日本の食事にもありそう」

「台湾は学校にお弁当を持って行って食べる」「みんなが温かいお昼ごはんあるのでいいな」→台湾の学校はお弁当を蒸し器で温める

「台湾の方より『いただきます』はいいですね、といわれたこの言葉はどこからきたのだろう？」

ブラジルグループ

「ブラジルは食べる事に関して興味が深い」「多文化の影響でバラエティがある」「ブラジルの人は日本の甘い豆に驚く」

「たくさんカードが余ったので他のカードも取れたらいいな、と思った」



「初めは取れるカードが少なかったが他のグループへ移動してきたらいろんなカードが取れた」

「いろんな文化の様子が見えてきたところがよい」

「**ブラジルは午前と午後別々に学校に行くのはなぜ?**」

→就学する児童・生徒数に比べて学校が少ないため交替する

北京グループ

「同じ国の情報だけではとれるカードがすくない」「他の国のグループから移動してきた人はたくさんとれてうれしい」

「普通のカルタのように答えが一つでないのがいい」「他の国の情報を得られる」

「たくさんの種類のカードを見ながら他の食文化について話し合いができた」

「中国は昼食を家で食べるように、国によりしっかり食べる食事が変わっている」「お茶、ウーロン茶の差に疑問を感じた」(p.13で王さんが解説)

カルタを作ったきっかけ

滋賀県では外国籍児童・生徒が増えてきています。学校において外国籍の子どもが「食文化の違い」や「学校制度の違い」に戸惑い、日本と外国籍の子どもとの間に溝ができているという話を聞きました。外国籍住民を支援している方からの話では、たとえば、ブラジルでは冷めたごはんを食べない、冷えた牛乳を飲む習慣がない(温め、ココアを混ぜて飲む)。そもそもブラジルでは学校給食がないなど、日本の学校給食に戸惑う子ども達と親の姿が浮かんできました。

そこで“国際理解教育研究会 Glocal net Shiga”では日本の子ども達と外国の子どもたちをつなぐ教材を作りたいという思いから、カルタ製作が始まりました。参加者はカルタゲームを通して、食文化の多様性を知るだけでなく、**他の国のグループへ移動することによって異文化に入ることや少数派になることを体験したり、当たり前と思っている自分の文化をふりかえるきっかけを得ることができます。**そして、1人ひとりが他の文化を理解し、受け入れるきっかけとなることを願って製作しました。

「情報カード：日本」をつくろう (20分)

日本の独自性をだして考えてみよう

参加者があげた今日の夕食の例

「おすし、味噌汁、だし巻き」

「ごはん、野菜の煮物、豆料理」

(お寺でなので精進料理が多い)

「ごはんとお好み焼き」

(関西出身)

「焼肉」

「ごはん、肉じゃが、ほうれん草の胡麻和え、
かす汁、漬物」

同じ夕食に限ってもいろいろな意見が出ました。

関西・関東バージョンや世代別などもつくってもみるとおもしろいですね！

【ワークショップに参加いただいた教材製作協力者のコメント】



久保恵卿さん
(台湾)

教材はいろいろな国の人と一緒に作りましたが、制作時になんとも思っていなかった「違い」がカルタになってはっきりしました。私の日本の食事のイメージは「焼き魚、お漬物、味噌汁、野菜の和え物」など一般的なものを思っていました、先ほど出てきたのはバラエティがありましたね。私が牛肉を食べないのは、私たちのために一生懸命お米を作ってくれる水牛を殺して食べるのはよくない、という仏教的な考えからです。台湾では今、精進料理が流行っていて健康のために豚肉や魚も食べない人もいます。それぞれの食文化に特徴があるのでお互い尊重すべきだと思います。お互いに理解することが平和につながると思います。

いろいろな国の食文化がわかるようになりました。中国で言えば56ある民族によって食べ物は違うし、35ある省によっても違います。教材製作では私の食文化を紹介しました。全体の食文化でいえば「おはしを使う」ことは共通ですが、中には手で食べるところもあります。また私はお米が主食ですが、お米でない地方もあります。お茶も中国では種類がたくさんあり、地方よって違います。人によって差もありますけど広州は緑茶、北の地方は紅茶類が多い、雲南省ならウーロン茶です。日本に来て10年ですが、日本の食事で気になるのは家族がバラバラに食べることです。中国では食事は家族全員で揃って食べていろんなことを話し合う交流の場です。日本でもできるだけ家族揃って食べて交流できればいいと思います。



王貴勤さん
(中国北京)



学校 & 地域でつくろう 多文化共生社会

ファシリテーター：角田尚子氏（ERIC 国際理解教育センター事務局長）

※ワークショップ開催の数日前に滋賀県長浜市で外国籍の母親が子どもの同級生を殺害するという事件が起こったことを受けて話が始められました。

今日、ワークショップが滋賀県であるという話をしていたら、滋賀県？ ……長浜、どこだ？ という話になりました。外から見てみると「滋賀県はひっくり返っているのではないかと」事件のニュースに集中しているのに、皆さんが平静なので驚きました。

外から見ると「そこにいる人たちみんな」と思われますが、中では普通の生活だと思えます。今日来られている皆さんはこのニュースを聞いて自分自身がどんな気持ちになったか、特に国際交流・国際協力・多文化共生に関っている自分たちとどのように関係があるのか、ということを中心に周りの方とお話になっているのでしょうか。ではグループで話していただきましょう。

色紙を使って表現 (20分)

★準備……

17 色の色紙をグループ分準備

★方法……

4 人グループに座り、机の上の色紙から各自、2 色を選ぶ

○ニュースを聞いた時の感じた感情を表す色は何色？

○今の気持ちを表す色は何色？

1 人 30 秒、全体で 2 分、自分の気持ちを受けとめながら、自分の気持ちを紹介する

★アドバイス……

同じ色を選ぶ人がいたら切ってもよいので 2 枚の色を決める
1 色で表せない場合は色紙を組み合わせることも可能



角田尚子氏
ERIC 国際理解教育センター事務局長。

大阪大学人間科学部、同博士課程（人間形成系教育技術学・教育課程論専攻）、英語講師などを経て 1988 年、グリーンピース日本連絡事務所を設立。89 年よりグリーンピース・ジャパン専従職員（～93 年 12 月）。89 年、国際理解教育・情報センター（ERIC）設立に関わり、運営委員となる。94 年 2 月～4 月までカンボジアでボランティアとして公立中学校で英語を教える。94 年 4 月より ERIC 事務局長を務めるとともに成城学園短期大学部、恵泉女学園大学、西武文理大学で教鞭をとる。「フード・ファースト・カリキュラム」の翻訳をはじめ、環境教育・人権教育などの著書がある。

タイムウォッチ

参加型で進める際、時間管理を参加者と一緒にしていくためのツールとしてストップウォッチ、タイマーなどを使って**タイムウォッチ**するとよい

やはり 1 人 30 秒では無理でしたね。その「時間の長さ」に「事件の近さ」があると思います。

今日一緒に考えていきたいこと

様々な価値観、背景を持っている人たちが常に共にある時代に

○わたしたちはどんな社会を創ればいいのか？

○子どもたちにどんな力を育めばいいのか？

わたしたちは様々な立場の人が常に一緒にいる社会に生きています。決して異文化理解のレベルの問題、他の文化を知ればいいのかという問題ではありません。今すでに多文化社会に生きているわけではなく、どんな社会を創ったらいいのかを模索している段階に生きているのです。

異文化体験ゲームの検討

ここで異文化体験ゲームを体験してみましょう。それを午前中のゲームと比較してみます。

レバ・アンブラー異文化体験ゲーム

ERIC国際理解教育センター「対立から学ぼう」より（25分）

★方 法……

- ① 1人1枚ずつ、役割カードを配る（レバ、アンブラーが同数になるように）

- ② 読んで理解をして自分たちの文化というもののあり方（行動規範など）について話し合い、（自分たちの行動をどのようにするのか）団結力を高めるようにする

- ③ お互いの交流によって学習する時間

「ここは1つの学校です。2つの文化的バックグラウンドの子どもたちが一緒にいる空間です。授業が終わり、これから交流の時間。何もルールはないのでお互い、いろんな方と交流をするようにしてください。」

- ④ 自分たちが「気づいたこと」「感じたこと」「学んだこと」「相手の文化についてどんな事についてわかったか」を各グループでまとめる時間 …《ブレインストーミング》

★アドバイス……ポイントを模造紙に書いていく

（この作業は、完成を目指すわけではなく、前の人が言った意見を繰り返さないためのもの）



レバ・アンブラー異文化体験ゲーム

文化を理解する
レベル: A/B/C

あなたはレバの人間です

レバの人たちはとても人なつこい。
レバの人たちは行動的。外国の人と話しをするのが大好き。
レバの人たちは長話をしない。次の新しい人に移る。

レバの人たちは握手するのが好き。そうすると人と触れ合えたと思える。
見知らぬ人でも、相手が手をさしのべてこなかったら、レバの人たちは手をつかみに行く。

レバの人たちは話す時に相手の顔をまっすぐ見る。
レバの人たちはだれでも、苗字ではなく下の名前でも失礼ではないと思っている。
男も女も同じように行動するが、レバの男の子は外国の女の子と話すのが一番好きだし、レバの女の子は外国の男の子と話すのが一番楽しい。
レバの人たちはできるだけたくさん外国人と話したい。長話はしない。レバは「たくさん新しい人と話した。もう今では仲よしだ」と言いたいのだ。

あなたはアンブラーの人間です

アンブラーの人たちだけでかたまる。アンブラーの人たちと一緒にいるのが楽しい。
アンブラーの人たちは決して新しい人に自分から話しかけない。話しかけられたら話す。話すときは腕を組む。
アンブラーの人たちはとても礼儀正しい。「お初にお目にかかります」「あなた様」と必ず言う。やたらと体に触れるのは失礼だと考えられている。

アンブラーの人たちの間では男の子の方が弱くて、女の子に守られている。
アンブラーの男の子は知らない女の子と目を合わせるのを避ける。知らない女の子に直接話しかけない。アンブラーの女の子を介して話しかける。

アンブラーの男の子は知らない男の子と話してもよいが、相手の方が話しかけてきた時だけ。相手の目を見てもいい。

アンブラーから意見が出たのですが、このゲームはアンブラーの方が学びが大きい、とのことです。では、「**前のグループが言ったことは繰り返さない**」というルールで一番大事なことを共有していきましょう。

〔ブレインストーミングより抜粋〕

レバより

「アンブラーは固まっている（からだ・位置・グループ）」

「わたしたちは人なつこいのにアンブラーはちっとも人なつこくない」

「とっつきにくい」「固まってしまう」「拒否されて二度と近づけない」

アンブラーより

「レバにつられてニコニコしてしまった」

「レバはあつかましくて、ずかずか入って、どう接していいのかわからない」

「そっとしておいてほしい」「男の子を女の子が守る」

「女の子としゃべれてうらやましい」「自立した男の子ってステキ」

ブレインストーミングの3つの原則

出された意見を否定しない
質より量（出された事を全部書く）
突飛な意見が突破口

グループ替え

じゃんけんをして負けた人が残り、残りが別のグループに移る

今度はレバとアンブラーを混ぜて話し合います。異文化が共存する中で、どのような姿、成長があるか、話し合ってみましょう。

ひとこと自己紹介 （2分）

★アドバイス……

新しいグループでワークを行うとき、自己紹介からはじめましょう！

例）「自分の1番好きな交通標語」

…など

グループワーク その①

グループでの「話し合いの心がけ」について話し合おう
（こういうことを心掛けると、スムーズに行く、深まる、学びが生まれる…など）

「思っていることは言う」「違う意見を否定をしない」「場と時間を共にする」

「意思表示をするなど反応しながら聞く（うなずくなど）」

「抽象ではなく具体で（事例を挙げる）」「きく耳を持つ」

「**性急に一致点を求めない**」

→「**未合意の相違点**」と名前付けると安心、共有できる

グループワーク その②

「話し合いの心がけ」をもとにして成長の契機、どのような未来の姿があるのか、
というのを考えよう（キーワードで）

「合意を得る」「悪意がない事を知らせる」「勇気をもって一言いう」
「違いを認める」「同じ目標に取り組む」「新文化『レバブラー』が誕生する」
「脱自己チュー」「相手の言う事をよく聞く」「相手に対して興味を持つ」
「相手のルールを知る（文化を知る）」「自分達をまず知ってもらう」
「インタラクティブで心地よい間合いを探す（相乗効果）」「勇気を持って一言を！」

→「聞く姿勢というのは相手の話を聞くことによって自分自身が変化してしまうかも
知れない可能性を閉ざさずにいることである」

ERIC 国際理解教育センター「未来を学ぼう」より

カルタとレバ・アンブラー異文化体験ゲームを比較

自分が全く変わるつもりがない、変化する気がないのに「コミュニケーション」することは果たして「コミュニケーション」でしょうか。「コミュニケーション」の語源は「コム＝共に」、「ユニット＝ひとつの」ですね。「コミュニティ」と「コミュニケーション」の語源は同じです。わたしたちは今住んでる「グローバルなコミュニティ意識」、「同じ人類なんだというコミュニティ意識」、「ひとつのものをともにもっているのだという意識」と「コミュニケーション」のスタイルを獲得していかなければならない時代に生きています。自分たちは変わらなければならない。今までどおりを伝えることは教育に求められてはいないので。カルタも1つの国の食事の中に様々な文化的影響がありました。午前中のカルタとレバ・アンブラーを比較して共通点と相違点を話し合い、書き出しましょう。

意見をじっくり読むために…

1人4枚ずつ、シールを渡す 他の
グループの意見を見て「おもしろい
な」という意見にシールを張っていく
自分の意見にも可



意見を読んでシールを貼っていく

共通点

- *異文化をシュミレーションできる
- *交流する機会が与えられた
- *自分の文化をふりかえることができる
- *文化はやり取りがないと理解できない

相違点

- *レバ・アンブラーはA or Bと葛藤を強いられる カルタは自分が第3者になってお気楽
- *レバ・アンブラーは感情まで入り込んだ
- *カルタは「知る」レバ・アンブラーは「考える」「変化する」
- *カルタは個人が見えてきた レバ・アンブラーは社会的な問題？ …

国際理解教育に求められるもの

「幼い脳をのっとりやすい文化が生き延びやすい」と言われています。どういう文化が「幼い脳をのっとりやすいのか」を考えていかなければなりません。「幼い脳をのっとりやすい文化」をつくりたいのです。いい文化は必ずあります。人間にとって気持ちのいい文化は必ずあります。

異文化共存の時代にわたしたちはどんな社会を創りあげなければならないか、を考えるとつかかりを体験しました。今は積極的な行動によってしか生き延びられない時代になっています。「ほうっておいたらいい時代」「待っていたらいい時代」「自分たちの文化が優れているのだから、わからないのがバカだといっていたらいい時代」ではありません。様々な要素を取り入れながら積極的な国際理解教育が必要です。「他の文化をたくさん知りましょう」ではないのです。

「過去の共有」から「未来のビジョン」へ

「どんな社会を創ったらいいのか」を考えていきましょう。まず、自分たちにはどんな過去があるのか「過去の共有」です。そして「未来」へ、を探っていきます。どのような教育を行ってもその教える側の姿勢によって教材はどのようにでも扱う事ができます。大事なことは教材を扱う人の姿勢そのもの。なにを伝えようとしているのか、自分たちがいったい何を次の子どもたちに伝えようとしているのか、について考えていきましょう。

あなたの“近江度”は？ (3分)

グループの中で1番誰が近江度が高いか？ 近江度が高い人を決める

文化を構成する要素、指標

「食べ物」「観光名所」「居住年数」「知識」「語れる熱さ」「琵琶湖で遊んだ経験」
「生きた年数」「歴史文化」「ふなずしを家でつくるか」「ことばの違いがわかる」 …

「その土地に人間が住んでいて、その土地は人間の営みによって自然環境が変化している＝それを『風土』というのだ」
(和辻哲郎)

「風土」は人・自然との総合関係のなかで生まれる。その「風土」に根ざして住んでいるのが深ければ深いほど人は安定・安心・安全なのです。なぜか？ 環境統制感が深いからです。環境についてコントロールする力＝Locus of controlですね。自分の住んでいるところについての知識・理解・体との共振関係が高いほど気持ちが安定・安心・安全なのです。土地の事を情報として知っているると自由と自信がここから生まれます。わたしたちがかつて生きていた「時代」「社会」「風土」と現在がどうちがうか、認識しておくことが必要で、わからないままに教育する事は危険だからです。近江度100%な人はいません。

さて、今度は移動した人が遅れてきた定着民になってみましょう。

グループ替え

グループで近江度が一番高かった人が別のグループに移る

遅れたきた定着民



自由国民社「森の暮らしの記憶」より

あるコミュニティ

遅れてきた定着民はこのコミュニティの中に入ってきたばかりその村の中でどこに住むのか、仕事、社会的な地位を決めてみましょう



遅れてきた定着民の意見より

- *1 番入り口の家でレストランを開きたいと伝えたら、新しい文化をもってきたということで村に受け入れてもらえた。
- *村長の家に居候することになる。まず、畑仕事&下働きの下っ端となった。
- *医者、技術者として入ってきたので、中央の広場に面した目立つところに住むことになった。村民が通いやすいように。村では貢献度があると認められたが、そうでないと配置が違うそうだ。
- *生きた年数を基準にしている村で、違和感なく受け入れてもらった。入り口は変質者に襲われると嫌なので奥に住居をもらった。仕事は村の集会で家畜の監視という意見もあったがごはんを作る人になった。安心して受け取ってもらえた。
- *村の会計官と食料調達係になる。村の会議の議決権が欲しいと主張し、1 年待て、と言われたが、税金を払わない、というと議決権をくれた。住むところは真ん中となった。

先住民の意見より

- *遅れてきた定着民の顔色を見ながら話していた。
- *みんなから見張られているのがイヤだから端に住むとのこと。子どもがたくさん居るので先生をしてもらおう。よそから新しい文化をもってきてくれるのでお客様待遇。
- *先住民よりも近江度が高い人がきたので大歓迎。真ん中の酋長さんの家らしきところの隣りに住む。手工芸品の製作。地位は尊敬すべき存在。

まったく異なる文化に来た人にみんながどれほど優しくったか

どの人類の文化も最初はこの様にして始まった。何代も続くうちに発展が刻まれていったのです。今は絵のような時代に住んでいるわけではないのに、自分たちの話の端々にこのような時代の感想が入っていなかったでしょうか。自分たちは今どんな世界に生きているのか、を考えてみましょう。

部屋の中で「世界」とのつながりを探そう
(15分)

★方 法……

- ① 2人1組に2分間で部屋の中にある「世界」とのつながりを20コ以上書き出す

つながっていないものはない 衣服はもちろん、時計などのグローバルスタンダード（世界標準）もその一つ

- ② 今度は4人でカテゴリー別に

カテゴリー

食べ物・情報・原料・文化・音響
化粧品・教育・お金労働力・ことば
概念・コミュニケーションツール …

グローバルスタンダードはわたしたちの生活のほとんどの局面でみられる ペットボトルのミリリットル、栄養成分、リサイクルマーク、バーコードなどもグローバルスタンダード 様々なグローバルスタンダードで生活が成り立っている

電気 → 物質
部屋の様式 → 文化
紙 → 物質
机(木製) → 物質
衣服 → 物質・文化
女性の髪型 → 文化
情報量 交通
物量 通信
自由にふるまえる
長生きできる
食料品が豊富

部屋の中の「世界」を考えた時に、グローバルなつながりなしでは自分たちの生活が成り立たない時代に生きているのだということが明確になりました。グローバルな社会という事は認めなければならない。自給自足の社会では許されたかもしれない文化、社会の制度が同じようにこの世界で許されるか。許せないもの、許してはならないものもあります。

グローバルな社会のおかげで獲得できている「社会的有利性」とは何でしょうか。

「選択肢が増えた(しなければならないものが増えた)とも言える」

「いろんな情報が共有できる」「長生きできるようになった」「人との出会いが増えた」

「自由な行き来」「日本の文化の発信」「誇りをもてる」「安定した食料供給」

「地球規模での分業によるゆとり」「災害時の相互援助」 …

「社会的有利性」の配分は誰が受ければいいのか

グローバルな世界に巻き込まれている今、無関係ではいられないのではないのでしょうか。ロールズは『社会的有利性』の配分が適切であることが正義なのだ。正義がおこなわれている社会は安定している。正義が満たされている社会は秩序ある社会として安定である。変化しないという意味ではない。(正義論)」とっています。

わたしたちが考えなければならないのは誰がグローバルな社会の有利性の配分に預かる権利をもっているのかです。いやおうなく関わらされているという意識の人もいるのではないのでしょうか。わたしは別にこんな社会を望んで生まれてきたわけではない、

わたしは反対、というのがあったとしてもわたしたちの中でこの社会に生まれたものの責任として受けとめなければ仕方ありません。常に人間の社会はそれぞれの社会の有利性の配分がありますが、その原則は①貢献度、②必要度、③平等。一つの原則で完結していた段階の社会はありません。いつもこの3つで考えながらやっているのが人間の社会といわれています。

昔と今は何が違うのか

今の時代に育つ子どもたちにどうすれば心の安定、そして自分自身の自信・自由・身の安全・心の満足・安心というようなものを育てていくことがわたしたちにできるのでしょうか。自分たちにゆとりがなければ、異質な他

昔の社会

- *地域社会が存在
- *実体験大事
- *自給自足
- *選択肢が限られている
- *時間がゆったり
- *1次産業のみ
- *循環型

今の社会

- *地域社会が崩壊
- *バーチャルリアリティ台頭
- *分業化
- *選択肢が広がる
- *時間がない
- *1次-3次まで広がっている
- *使い捨て文化

者を受け入れることはとても苦しい。今の子どもたちには難しくなっているのです。これを育みつつ地球市民への道筋というものを教育が意識して作っていかなければならない時代です。ほおっておいたら大人になる時代ではないのです。ベースを作る、そこから地球市民性まで至る、それを18歳までの子どもの時代にわたしたちは教育の義務として行なわなければいけない。それが「すべての人々に教育を」という決意を国際社会がしたときからの私たちが国際的に共通して子どもたちに育まなければならないもの。それは「安心・安全・自由・自信」と「グローバルなコミュニティ意識」です。どちらかだけではだめなのです。土着させるだけではわたしたちの答えには不十分なのです。昔の教育だったら土着させるだけでよかった、民族意識・国民意識・愛国心を育てればよかった。そんな単純な時代ではもうないのが現実です。今日やってきたアクティビティは「**経験主義・経験学習の4段階**」というような方法で組み立てています。体験したことから経験知、経験則という応用の利く習い方をしていきましょう、という経験主義学習のデューイ

経験学習の4段階

- 1.体験する
- 2.ふりかえる
- 3.一般化する
- 4.応用する

の考え方に則っているのですが、わたしたちが普遍的な社会とともに生きるための「value=価値観・概念」といったものを発見できるようにアクティビティを組み立てていく事が大事です。それが様々な文化的な違いを越えて、わたしたちが実現したい社会というものを支える共通の価値観を子どもたちに身に付けさせていく、というのが大切なのではないのでしょうか。

学習を進めるときにどんな心がけをしたらいいのか

★方 法……

1人1枚、あいさつの仕方を書いた紙をとって、自分に与えられたあいさつの方法で2分間、なるべくたくさんの人とあいさつをしあう
「おしりをぶつける」「右手を上げる」「あくしゅする」…紙に書いたとおりにあいさつ

あいさつゲーム (2分)

さまざまな感情

ERIC国際理解教育センター

★方 法……

- ① 同じあいさつをした2人1組で座る
- ② 1人1枚ずつ、2人で話し合いながら挨拶ゲームをしているときにどんな感情、気持ちがあったか、感情リストから確認する

★アドバイス……

わたしたちが異質なものと出会うときには、さまざまな感情が沸き起こる 「私は大丈夫なんだ」

「違和感なんかなかったよ」という強がりをする必要はない 自分の中にさまざまな感情があるということを認めることのほうがよりよい手立てにつながる 認めないことは鈍感になっていくだけ 「鈍感」な人がつくる社会は「鈍感」な社会

さまざまな感情

あぶなっかしい	いらいらしている	いらだたせる	うちひしがれた	うらやましい
うれしい	うろたえる	エクスタシー/忘我	おどされたような	きつい
けげんばし	すばらしい	とんがった	バカな	バツが悪い/当惑
はにかみ/臆病	みじめ	みにくい	よい	愛想がつきた
意気揚々/得意げな	意地悪い	陰気な	楽しい	官能的な
希望	強い	恐れ	恐れている	背えた
苦しい	苦々しい	屈辱的	激怒している	孤立した
高揚した	混乱した	罪悪感がある	自己抑制的な	自信に満ちた
自由	失望した/裏切られた	嫉妬/やきもち	寂しい	弱い
受け入れられた/受容	集中/緊張	助かった/楽になった	傷付いた	傷付きやすい
傷付きやすい/攻撃されやすい	情熱的な	心配/悩み	心配している	神経質
親愛な	性的	退屈な	短気な/過敏な	暖かい
敵意	怒り	内気な	熱っぽく/熱狂	熱心な
悲しい	悲観的	疲れた	必要とされている	不安な
平和/平穩	保護的	防衛的	無視された	無力感
			勇気	遊び心
			落ち着かない	落ち着きのない
				畏れにまいった

豊かな共感のためには豊かな感情があるから「共感」があり、「共感」があるからこそ、「共生」の社会を作ることが可能なんですね。人が寂しく思っている、悲しんでいる、困っている、自分の感情を押し殺している人は共感できるはずがないのです。

異文化体験というのを学びにつなげるために私たちが教育的な配慮で心がけるべきことはなんでしょうか。

- 「少数派の意見も最後まで聞く」「思っていることは発言する」
- 「気持ちをことばにして表現する」「とりあえず関わってみる」
- 「自分が楽しみながら行動する」
- …

わたしたちはつい、感情というものは「自然で現象的なもの」と思っていますが間違いです。感情は「学習されたもの」です。レバ・アンブラー体験で学んだように自分たちの文化にルーツがあるのが感情です。そこには何らかの価値観に根ざしたものがあります。それは非常に強固・頑固であたかも自然であるかのように風土として育てているからそういう感情は現象的なものだ、と誤ってしまいがちですが、その誤解から解放されなければなりません。1980年代のパウロ・フレイレの「脱学習の課題」です。国際理解教育の異文化理解だけではなく、「いいパターンの学習」というのが求められている。スーザン・ファウンテンは自分自身を大事に思える「セルフエスティーム」「コミュニケーション能力」「協力する力」など共通して学べる「いいパターンの学習」を指摘しています。「いいパターンの学習」を習熟し、体でできるようになるまでやりましょう。

じゃんけんゲーム

★方 法……

- ①2人1組で1人がリーダーとして先に出す もう1人が必ず負けるものを出す
- ②負けるものを5回連続出せたらリーダーを交代

文化というものがなければわたしたちは成長できません。しかしながらそれは諸刃の刃。わたしたちに与えられているツールをうまく使って次の時代をどう切り開いていくのか、国際理解教育に関わっている方、関心のある方の共通の課題だと思います。

“Better quality of education” わたしたちの未来を開くのは「よりよい質の教育」です。今までの教育ではなくて「よりよい質の教育」によってわたしたちが「共に生きることを学んでいく社会」「さまざまな文化的な違いを越えて共に生きていくことのできる社会」を作っていかなければなりません。だれもまだ答えがありません。子ども達と一緒に考えていかなければならない。だからこそ、参加型で一緒に考えていくトレーニングを教育的指導者の方も積まなければならないと思います。



地球市民を地域とともに育てよう Part 4

～当たり前ってなんだろう？ アジアの子どもたちに学ぶ生きる力～

『当たり前ってなんだろう？ アジアの子どもたちに学ぶ生きる力』と題して、子どもの人権ファシリテーター・聖和大学助教授の浜田進士さんを講師に迎え、ワークショップを実施いたしました。

午前部

一緒に考えてみたい『国際理解』の意味

今日は「日本の子どもと開発途上国の子どもとのつながりを見だし、途上国の子どもたちのことを学んでみることを目標とし、「学べば自分にとってもプラスになるんだと生徒に思わせるには、どうしたらよいか」について情報を交換をしたいと考えています。

近頃の日本には、「将来を楽しむより、今現在を楽しもうとしている子ども」が、たくさんいるという、とても危惧される状況があるようです。作家の村上龍さんは、著書の中で、「この国には、何でもあるけれども、希望だけがない」ということを書かれています。そこで今日は、そういう子どもたちに国際理解の意味を教える、また、それを学ぶということの意義についても考えてみたいと思っています。

私は、今、3つのテーマで仕事をしています。1つ目は、「子どもの権利条約」について伝えること。2つ目は、「開発途上国の子どもと日本の子どもたちをつなぐ」ということで、開発教育、あるいは開発協力という形でかかわらせていただいています。3つ目は「学びの参加とまちづくりの参加をつなぐ」活動を実施しています。

昨今、「子ども参加」ということが、開発の現場でも日本国内においても一つのキーワードになっていると思います。

今年 12 月に、全国からさまざまな大人や子どもが参加しての「子どもの権利条約フォーラム」が滋賀県で開かれます。滋賀県には、また、「子どもの権利条約」を作る動きもあります。私は、その条約を県レベルで作るための「条例作り」を支援しています。また、各地で行われている参加型「子ども会議」として、子どもたちと市長さんや教育長さんたちが話し合う場をつくるお手伝いもしています。



講師・浜田進士氏
奈良県出身。(財)日本ユニセフ協会(国際連合児童基金日本委員会)に勤務後、バングラデシュにて子どもの人権を調査研究。その後、NGO 国際子ども権利センター事務局長。また、最近は、「子どもの居場所作りの調査」「市長と子どもたちの本音でトーク！」など、自治体における子どもの権利支援・社会参加、子どもを支援するための養成講座を実施。主な著書に、「新しい開発教育の進めかた～地球市民を育てる現場から～」(古今書院)「おとなのための子どもの権利条約」(解放出版社)「検証 子どもの権利条約」(日本評論社)(いずれも共著)他。
現在、子どもの権利条約総合研究所研究員、(特活)多文化共生センター理事、(財)日本ユニセフ協会大阪支部評議員、(財)箕面市国際交流協会評議員。

初めに、みなさんお互いが、お知り合いになっていただきたいと思います。その後で、「国際理解」についてお話をさせていただく予定です。また、非識字体験や「ランキングづくり」などをやっていただき、最後に、ストリートチルドレンと日本の子どもたちを「どのようにつないでいくか」ということについてグループディスカッションができればと思っています。

ここで設けられた4つのルール

1. 参加……かかわり合う、諦めない。
2. 尊重……相手の話を聞く。自分のことをオープンに語る。
3. 守秘……秘密を守る。聞いた話を翌日他の人に話さない。
4. 時間……時間を分かち合う。

アイスブレイキング (ねらいと方法)

★ねらい……グループディスカッションを円滑に進めるため、お互いが知り合いになる体制をつくる。

★方 法

○立って3、4人で円になりお話をする。知らない人の所に行って、「あいこ」になるまでジャンケンをする。「あいこ」になったら握手をして、簡単な自己紹介（お名前、どこから来たか、等）をする。

○ファーストネームチェーン

ファーストネームを指で書いて、無言でアルファベット順に並ぶという手法。



手のひらに指でアルファベットを書いて

★アドバイス……クラスで、あるいは地域で、参加しやすい関係をつくる時には、参加しやすくするための準備作業として、今の力関係を一度壊すのが良い。これを「アイスブレイキング」と言う。その方法の一つとして、「ジャンケン」がある。他にも「誕生日の順に並ぶ」という方法等もある。今日は、ジャンケンと国際理解という主旨から「ファーストネームチェーン」を使ってアイスブレイキングを行った。



グループワーク

ファーストネームによって編成された4人1組でのグループ討議

写真教材『『地球家族』（国際理解教育センター出版）』を見ながら各班で「この写真の国（家族）を選んだ理由、どうして行ってみたいと思ったか」を話し合う。



「豊かさ」とは何？・・国際理解のポイント

私は、この10年ほど「バングラデシュを救う9個の方法」というのを使って、参加者各自が1～9の支援項目のうち重要だと思う順番に優先順位をつける「ランキングづくり」をやっています。最近、高校生や大学生がつくるランキングから、10年ぐらい前とは彼らの「見方が変わってきている」、「豊かさの見方も変わってきている」と感じています。

そこで、「豊かさ」とは何なのでしょう？ 皆さんなりに「豊かさの基準」があると思います。モノが無いことが貧しいのか、モノさえあれば豊かなのでしょうか。私は、まさに、ここが国際理解のポイントだと思います。

「なぜ、国際理解教育を行う必要があるのか」《5つの国際化》

《5つの国際化》……①経済 ②ヒト ③問題 ④制度 ⑤意識の国際化



最近では、小学校でも「国際理解教育などより英語を教えてほしい」という声が多いようです。では、「何のための英語、何のための国際理解」なのでしょう。

私は国際化には、『5つの国際化』があると考えています。その1つが、めまぐるしく展開する「経済の国際化」です。

このことを取り上げて、「ハンバーガーから世界が見える」、「コンビニから世界を見よう」とか、「100円ショップから世界を見よう」というように、『モノを通じて世界を見よう』という学習も生まれているようです。

2番目が「ヒトの国際化」です。「ヒトの国際化」に伴い、犯罪も国際化しています。犯罪の国際化だけでなく、いろんな問題も国際化をしていると思われます。中には、離婚をめぐる国際間のトラブルや、人身売買などのような子どもにかかわる問題もあります。日本にも、タイやさまざまな国から15、16歳の子どもが売られてきているそうです。最近、『子どもたちのアフリカ』という、衝撃的な本が岩波書店から出ましたが、その中に、15,000人もの子どもが、わずか1,500円ばかりのお金で奴隷として人身売買され、アフリカの農場でカカオ豆を作っているという児童労働の話が書かれています。

3番目が「問題の国際化」で、テロ、エイズ、貧困等の問題があります。

こうした問題にどうやって歯止めをかけるかということが今議論され、「制度としての国際化」「人々のつながりの中で変えていく」「新しい法律の制定施行」といった動きが出てきています。

これが4番目の「制度の国際化」であり、「子どもの権利条約」もその一つです。

5番目の「意識としての国際化」は、一人ひとりの意識を変えていく必要があるというものです。教育の現場でもこうした課題と一緒に解決していこうと「意識の国際化」を進めています。このことは「持続可能な開発のための教育の10年」として国際理解教育の中で重要な位置づけとなっています。

国際理解教育の目的・・『3つのフィールド』

子どもたちにとっての国際理解とは、どういうものなのでしょう。私は、教室にいる子どもたち、地域で暮らしている子どもたちが、さまざまな世界や人と出会う中で、自分を発見したり、他者と関わったり、社会に関わっていく、そのプロセスそのものが国際理解だと思うのです。

そこで、国際理解教育を進めるための3つのフィールドについて説明します。

その1つ目が、世界のさまざまな問題を知ること、『世界と出会う、世界とつながる』ということです。この目標概念は「持続可能な開発」(sustainable development) 地域、社会の継続です。この社会を出来るだけ長く続けていくためにいろいろなことを知っていこうということです。

このベースになるのが2つ目の「自尊感情」「他者共感」「コミュニケーション」というものです。「違いを認めていく」「一緒に協力しあう」というベースがなくては国際理解はできません。自分のことが嫌いと思っている子には、他者を好きになることはできません。自分のことが嫌いで、相手のことも嫌いという人に、ルールを共有することはできません。『自他を愛し、尊重する心』が、まさに、国際理解のベースなのです。自分を愛することができ、身近な人と仲よくしようという気持ちがなければ、なかなか他の国の人と出会おうという意欲は持てません。この目標概念は、「エンパワメント (empowerment)」それぞれの子どもたちが本来持っている力を発揮できるようにしていくためにも国際理解が必要だということです。

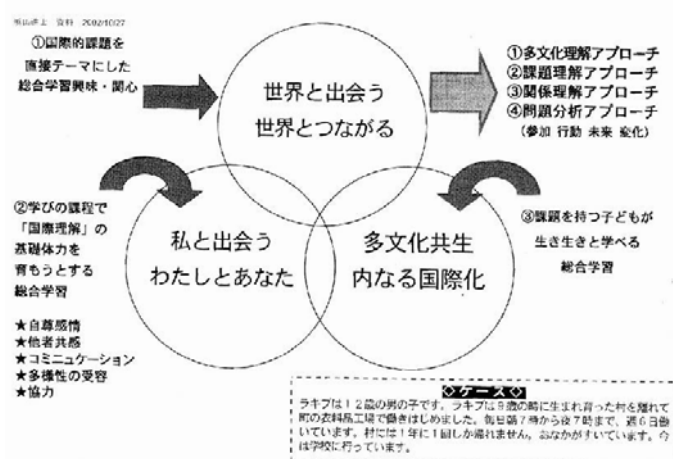
もう1つが、『違いを認める』ということです。ファッションが違う、少し何かが違うということで、排除されることがあってはならないということです。2人、3人の仲間関係を維持することに神経をすり減らしている子どもたちが教室の中に大勢います。そして、その子たちは、そこに他の子どもが入ることを嫌います。特に、滋賀には、異文化の子どもがたくさんいます。LD (学習障害)、不登校などのさまざまな背景を持った子どもや障害を持った子どももいます。『排除されない』『共に学び、共に生きる』ということが重要なのです。この目標概念が「多文化の共生」(social inclusion) つまり違いを豊かさにしていくための多文化共生です。社会から排除される人を増やすことなく、社会的に包み込み、違いを豊かさしていく、そのためには、差別しない社会をつくっていかねばなりません。

『4つのアプローチ』

そこで、「国際的課題を直接テーマにした総合学習の四つのアプローチ (①多文化理解アプローチ ②課題理解アプローチ ③関係理解アプローチ ④問題分析アプローチ) についてお話をします。

子どもたちに世界の課題を学習させる時、いきなり途上国が抱える厳しい現実課題から入る必要はないと思います。①

の展開をしていくとき、開発途上国にもあるプラスの部分、楽しい部分をしっかり伝えたいものです。その後で、困っている子もいること、そして、ストリートチルドレンなどの課題についても、NGOなどの団体との関係とも絡めながら触れていくのがいいと思います。



『多文化理解アプローチ』

フォトランゲージ

(教材「ストリートチルドレン・100人の子どもたち」
“シャプラニール=市民による海外協力の会出版”を使用)

ここにバングラデシュのストリートチルドレンの写真があります。先ほどの楽しそうな写真とはちょっと違いますね。ストリートチルドレン一人ひとりの写真です。それぞれ出会ってみたい子どもの写真を1枚ずつ選んでください。ストリートチルドレンには、広義でのストリートチルドレンと、狭義のストリートチルドレンがあります。狭義のストリートチルドレンは「路上で働きつつ、路上で寝ている」子どもたちであり、広義では「路上で働いているか、または、路上で暮らしている」子どもたちということです。この狭義でのストリートチルドレンだけで20～30万人いると言われています。でも、大事なことは、「数字で計らない」ということです。

フォトランゲージ……写真を見て、学ぶこと、感じること

課題・この写真から①どんなことがわかるか？ ②どんなことを感じるか？

③働くことは、けんりなの？ (日本の子どもは、どんな仕事をしているの？)



写真を見て、どんなことを感じ、コメントを読み、
どういふことを学んだかが話し合われた。

「子どもの権利」

「地球市民を育てる教育とは？」ということで、「子どもの権利」をテーマにした話に入らせていただきたいと思います。

みなさんどうでしょう。「子どもにも働く権利があったほうがいい」と思われるのでしょうか。一応みなさんには、労働権というものがあります。年休を取る権利もあります。では、子どもには働く権利があるのでしょうか？ 働いてもいいのでしょうか？

「働く権利」とは「児童労働をどう考えるか」

子どもに「働く権利」があるとすると、日本の子どもたちは働く権利を剥奪されていることになります。では、労働できないことは、権利侵害なののでしょうか。

次の疑問は、どういう場合だったら、働いていいのか？ どういう場合だったら、働いたら悪いのか？ とういことです。

そこで、「子どもにとって、いい労働」と、「子どもにとって、悪い労働」というふうに考えてみましょう。

実は、「児童労働をどう考えるか」について、今、国際的に、子どもの権利条約の再検討が始まっています。そこにおいて、「子どもの労働権」が、まさに議論の焦点となっています。去年、「児童労働の子ども会議」というのが、イタリアで開かれ、各国が

『けんり』とは、『あたりまえ』と訳するのがよいと考えています。一人ひとりの子どもの願い(要求、意志)がみんなの共通の願いだとおとなたちが約束し合ったきまり

ら児童労働禁止派の子どもたちや、元ストリートチルドレンなどが集まり「労働禁止」を訴えました。一方、それに対するカウンター会議がドイツで開催され、世界の子どもたちが、「労働を認めるべきだ」と主張しました。例えば、ペルーのナソップという団体やインド・バンガロールのCWCという団体は、子どもたちの労働権を主張をしています。今まさに、「子どもが働く権利があるか、どうか」ということで、当事者間でも議論が分かれています。

ただ、日本の子どもには、それ以前の問題があるのではないかと思います。以前、インドの子どもとキャンプをした時、インドの子どもから「日本の子どもは今どんな仕事をしているのですか？」という質問を受けました。答えに窮した日本の子どもたちが言ったことは、「風呂掃除や、玄関の掃除かな」というものでした。

では改めてストリートチルドレンの話に移りたいと思います。その前に一言いっておきたい大事なことは、問題を理解する前にその国の「豊かさの面をしっかりと伝えていたきたい」ということと、問題を理解する時には「気持ちという部分に寄り添うような、学習」というのが大事ではないかということです。

「あっていい仕事」と「あってはならない仕事」

ユニセフでは、「あっていい子どもの仕事」のことをチャイルドワーク、「あってはならない子どもの仕事」のことをチャイルドレイバーといいます。この辺の基準は、また、機会があったらお伝えしたいと思います。資料によると、「児童労働」という、学校へは行けずに働いている子が結構います。ユニセフの基準では、長時間就労、低賃金就労、借金のかたや強制的な労働、危険な労働、心身、精神的な発達を妨げること、子どもの尊厳を失わせるような労働、重い責任を持たすことを「あってはならない労働」としています。その中の1つに、「路上での労働」があるわけです。

ランキングづくり……ダイヤモンドランキング

参加型手法

これから「ランキング」をやっていただきます。「どの援助方法が重要」を考えて、9個の支援の仕方の中から、第一印象で考えて重要だと思う支援の順に並べましょう。

- ①ストリートチルドレンが自活できるように技術を身につける職業訓練を実施する。
- ②彼らが飢えないように、無料の炊き出し（食料援助）を行う。
- ③周辺住民の理解を得るため、ストリートチルドレンへの支援の必要性を伝える。
- ④病気・けがなど何かあったときのための駆け込み寺（居場所）をつくる。
- ⑤ストリートチルドレンは根本的には貧困が原因である。農村からの流入を防止するため社会的・経済的な基盤の整備を行う。（道路・電気・水道など）
- ⑥彼らの親や保護者を捜し、家族に返す。（家族との再会）
- ⑦読み書きなど基本的な教育を受けるための学校を無料で開く。
- ⑧一般の人々と同じ生活を行うために、定住のための福祉施設をつくる。
- ⑨ストリートチルドレンの現状を知ってもらうため、広報活動を日本で行う。

その後、意見交換がされました。

午後の部

聖徳太子ゲーム……昼食休憩のあと、聖徳太子ゲームを行い、ウォーミングアップをしました。その後、再び、ストリートチルドレンを支援するための対策について、ダイヤモンドランキングを作成しながらグループディスカッションを行いました。

アイスブレイキング (ウォーミングアップ)

『課題理解アプローチ』



▲ランキングの話し合い

各グループに模造紙が1枚ずつ配られ、午前の部の最後の9つの支援について、ランキングの話し合いが行われる。



五感（見る、聴く、触る、匂う、演じるなど）を使って理解する

本日の参加者の中に青年海外協力隊などで行かれたことのある方、先生、いろいろな情報を持っておられる方や、子どもとずっと寄り添っておられる方がいて、深い議論がなされていることに驚きました。しかし、子どもたちだけの場合には、なかなかそういうふうにはいきません。まず、バングラデシュがどんな国なのかから始まり、いろいろなデーターを読んだり、観光用のビデオを観るといったことが必要となります。

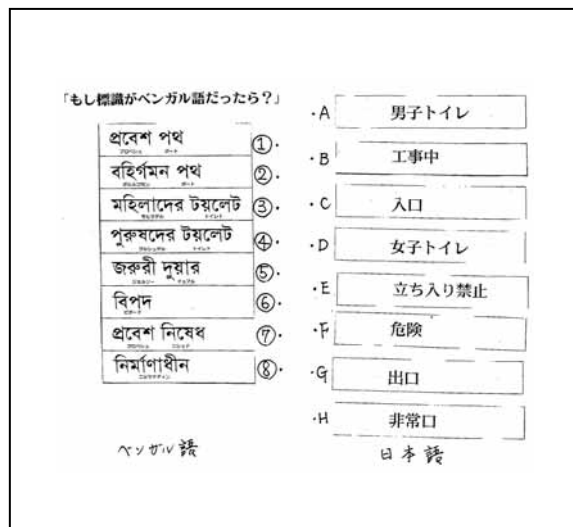
そうした課題を理解する時、「五感を通じた問題理解」が大切になります。例えば、私たちが、児童労働を理解してみようと思う時には、「マッチ棒作りのワークショップ」や、「水運びの壺を持ってリレー」をやってみるようなことも役立ちます。

ストリートチルドレンの中には、いわゆるボスと言われるおとなから、給料を持ち逃げされたり、いろいろな辛い体験をしたことで、おとな不信になっている子どもが多いことも理解しましょう。

非識字体験

次に、例えば、みなさん、この「ワークシート」（「もし標識がベンガル語だったら」）を見てください、みなさんがストリートチルドレンだったら、生活に必要な情報が看板に書かれていても、文字を読むことができなかったら、どうなるかを体験してみましょう。この「ワークシート」に書かれている数字の番号とアルファベットを、今から2分間で、つないで下さい。「全部間違っていたら、あなたたちは生きていけませんよ」。

ベンガル語と日本語の書かれたワークシートを使って



左側①～⑧のベンガルと右側A～Hの日本語をつなぐ

<答>

- ①プロベシュ ボート…C入口
- ②ボヒルゴモン ボート…G出口
- ③モヒラデル トイレト…D女子トイレ
- ④プルシュデール トイレト
……A男子トイレ
- ⑤ジョルリー ドウアル…H非常口
- ⑥ビボード……F危険
- ⑦プロベシュ ニシェド…E立ち入り禁止
- ⑧ニルマナディン…B工事中

「モヒラ」というのは女の人という意味です。

<出典 日本ユネスコ協会連盟>

全問正解者 なし！

「字が読めなかったら」

私たちは字が読めるのが当たり前だと思っています。

ここで、大事なことは、答え合わせのとき、どんな気持ちだったかということです。

⇒「すごく不安だった」「ドキドキした」。

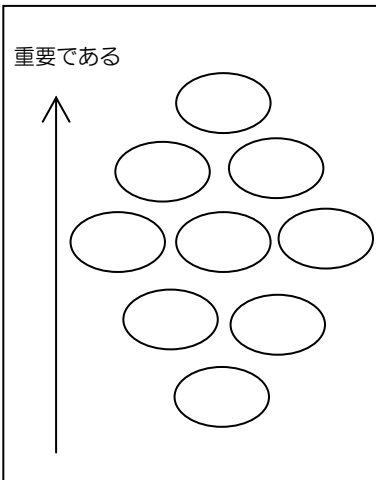
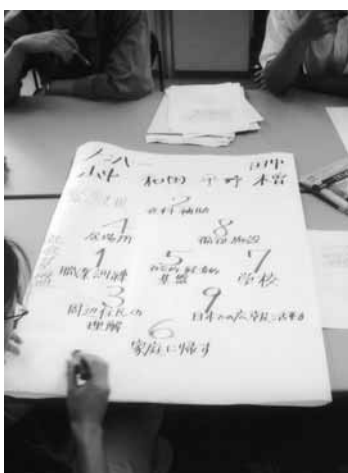
これが、ストリートチルドレンの「字が読めなかったら、いい仕事につけない」という気持ちを理解することにつながるのです。

「言葉がわかる、読める」ということは、大変なことなのです。私の知り合いのNGOの人が、ある言語を「絵を使って伝える」練習をしてみたのですが、しみじみ、伝えることの難しさを実感したようです。

(ビデオ「生きる力を持つ子どもたち」(シャブラニール) 上映

『関係理解アプローチ』「ダイヤモンドランキング」

では、ビデオの情報も参考にして、グループで、「ランキング表」を完成させてくだ



さい。いろんな基準があるり、いろいろなパターンができると思います。

「私たちはこの基準で作りました」ということを書いてください。支援方法の中にないものを考えられたら、「こういうのも大事だよ」と、下の方に書いてください。またもめたことなども書いてください。

【発表】

1 グループ約2分で発表を行う

A班………「緊急性を最優先にしました」

緊急性を最優先ということで、取り敢えず、「食料が必要な」ということで1番上に②の食べ物を持って来ました。それから、2番目に教育と職業訓練を持って来ています。実は、今必要なのは、「子どもに職業の技術、スキルを身につけさせて、しっかり働ける環境を作ってあげること」だが、



長期的な視点として、学校で教育を受けさせること、読み書きなどを、学ばせるという「50年後、100年後の視点も必要」ということで、すごくもめました。それで、①と⑦を並行にして2番目に持ってきています。その次が、ドロップインセンターの④です。家庭に関しては、「子どもが愛情を得られないような家庭であれば、今のところ、必要ないであろう」ということで一番下に持っていつています。

話し合いの中で、考える視点として、長期的な視点、50年後、100年後、この子どもたちが親になった時に、どういう子育てをするだろうかという視点も必要だということ、そして、今、目の前にいるこの子どもたちをどう支援するのかという、その2つの視点から考える必要があるという視点から考え①と②と⑦を重視しました。給食の提供と教育と職業訓練という、どちらもやってくれるような施設があればいいと思いました。また、大人との関係が持てるような施設もあればいいという意見もでました。

B班………「取りあえず“駆け込み寺”で救済を」

やはり「長期的な視野にたつての支援」「短期的な視野にたつての支援」ということで考えが分かれました。我々の班では、駆け込み寺として、ビデオの中で出てきたドロップインセンターのような施設で、取り敢えず子どもの救済にあたり、それから、長期的な対策を考えていこうということになりました。



長期的な対策としては、2番目に挙げている、①と⑦、職業訓練や学校です。そういった長期的な視点にたつて子どもを教育し、将来的にストリートチルドレンを、「自活、自立できるようにしよう」という考えです。②と⑧については、「無料の炊き出し」というのは、「その場しのぎの解決策」であって、短期的な成果しか見込めないということで、3番目にしています。⑤のストリートチルドレンの問題については、そもそも「農村部の貧困の問題」ともいえると思います。そういう点で⑤のような農村の社会的経済的な基盤の整備という点から問題の解決をしなければいけないという意味で、迷いました。⑥については、そもそも家庭にいられないから都市部へ流れて来ているわけですから、保護者を探して、家庭に帰すというのは、今現在「考えるべきではないんじゃないか」と思いました。

さしあたって、広報活動、周辺住民への理解を得るための啓発が大事だろうと考えています。また、ビデオを見て、ドロップインハウスとか、ドロップインセンターで「家族に代わる人とのつながり」の重要性を感じました。

C班…「居場所を求めているのところがうかな」

まず、即効性から、長期的な支援になるようにという観点で考えました。

④の「居場所」を一番上に上げたのは、ビデオを見て、「居場所を求めているじゃないか」と感じましたので、そういう観点から一番上に上げました。⑦と②が2番目に来ているのは、食料が厳しそうに見えたので、これは「必要ではないかな」ということです。それから、学校も、「学校でいろんなことを学ぶことで、解決されることが多いのではないか」と思ったからです。



最初に下のほうにあった⑨が途中から真ん中あたりに上がってきたのですが、「もっと知ってもらおう」、例えば日本で知ってもらふことによって、NPOとかNGOに動いてもらえるのでは、と考えたからです。

⑧の福祉施設については、「ベッドもあって、かなり施設としてはすごいもの」と考えて、下の方にもっていきました。⑥の家族との再会については、ビデオを観て、「子どもたちは、あまり家族との再会を望んでないのではないか」と感じたので、1番最後にもってきました。

新しく考えた支援方法は、ビデオを観て、日本の子どもみたいに、サッカーができる、野球ができる、鬼ごっこができるという空間がなさそうに思えたので、子どもたちが遊びを通して、いろんなことを学ぶことができる、そういう「空間」が必要だと思いました。また、ネグレクトとか、虐待ということを踏まえて、「親の教育の場づくり」ということが、新たに支援できる方法ではないかなと思いました。

D班…「衣・食・住たりて、なんとやら」

私たちは、緊急支援ということで、②、④、⑧を赤で書きました。人間は誰でも、衣・食・住という「第一次要求が満たされないことには、満足できないであろう」ということで、その3つを大事な枠に入れました。



次に即効性はないかもしれませんが、社会的な基盤も、同時に並行して整えなければいけないであろうということで、職業訓練としました。ここには、親の職業訓練も含めたいと思います。失業者、働く場所のないような人を減らすためにも、職業訓練施設が必要だと思います。ビデオで「将来は、機械工になりたい」と言っていた子どもがいましたが、子どもに職業訓練的なことが施せる施設、場所が必要だろうと考えました。その横に①、⑤、⑦と書いています。これは、内面的なカウンセリングといったことも必要なのではないかなと思うからです。医療も必要だろうと言いながらそこに入れました。③、⑨は、漠然としていて、即効性という点ではかなり落ちると思います。それからビデオを観て、虐待、離婚といった家庭の絡む問題が大きいと思いましたので、家へ帰すことが、必ずしもその子の自立には役立たない、むしろ、その自立を妨げると感じました。心情的には、子どもの親に会いたいという気持ちもわかるのですが、今はそれよりも、福祉施設等で、しっかりした教育を受けるなどの環境整備が大事だと考えました。

E班…「駆け込み寺を一番上にしました」

私たちの班は、まず、④、駆け込み寺を一番上にしました。最初は、食料の緊急補助という意見が多かったのですが、ビデオから、まず、居場所が必要だと感じました。それで④を一番上にしました。

2列目には、職業訓練と教育です。職業訓練は、自活ということで、将来的にきちんとした職業につけるという意味があります。体を洗う、食べ物を作るといった、基本的な生活の部分も含めて重要ではないかと考えています。また、教育は、字が読めないことで、生活レベルが低くなってしまっているということで、改善されなければならないと感じました。3つ目の栄養面ですが、これが1番上から3番目までランクダウンしてしまいました。しかし、最低限の栄養面は必要だろうということで3列目にしています。

周囲への啓発ということで、広報活動等の効果がどこまで期待できるかということを確認視しています。広報の点では、現地での広報と、日本での広報と2つあると思いますが、まずは、現地の住民、地域の理解を得ることが重要だと考えて3列目にしています。次が、⑤の社会基盤の整備です。新たにストリートチルドレンを生むような発生源にもなるということで3列目にしています。

親との生活が子どもたちにとって、必ずしも、安全ではないと思いましたので、一番下にしています。



F班…「お腹が空いていては、なにもする気になりません」

私たちの班でも、最初に食べ物をもってきました。「お腹が空いていては、何もする気が出ないのではないかと」考えて、食べ物の補給、栄養の補給を重視しました。お腹が膨らめば勉強することもできるのではないかとということで、次に、学校をもってきました。先程も、識字のところでありましたように、文字が読めたほうが、危険な所を回避できますし、少しでも計算できると仕事の範囲が広がります。同時に、居場所や安全を確保するというで⑦をもってきました。「生きるために必要なことをまず優先しました」。また、学校で文字を覚えれば、本も読めるようになりますから、職業訓練も出来るのではないかと思います。福祉施設を造るためには、周りの人の理解が必要ではないかとということで3番目に職業訓練、そして、地域の理解、福祉施設という順になっています。

最後の3つは非常に悩んだところです。⑤は、なんとなくここに入ったという感じです。取り敢えず、村に経済的基盤が出来、安定した暮らしができれば、都会へ流入する人も減るのではないかと考えました。「村の大人の人にも識字教育をした方がいいのでは」という意見も出ました。最後までめ、まだ決まってないのが、⑨と⑥で、日本での広報活動によって、資金が集まるのではないかと意見もありますし、村や家庭での基盤が出来れば、子どもたちを家庭に帰した方がいいのではないかと、どちらの方が優先するかということで、今もまだ決着していないところです。



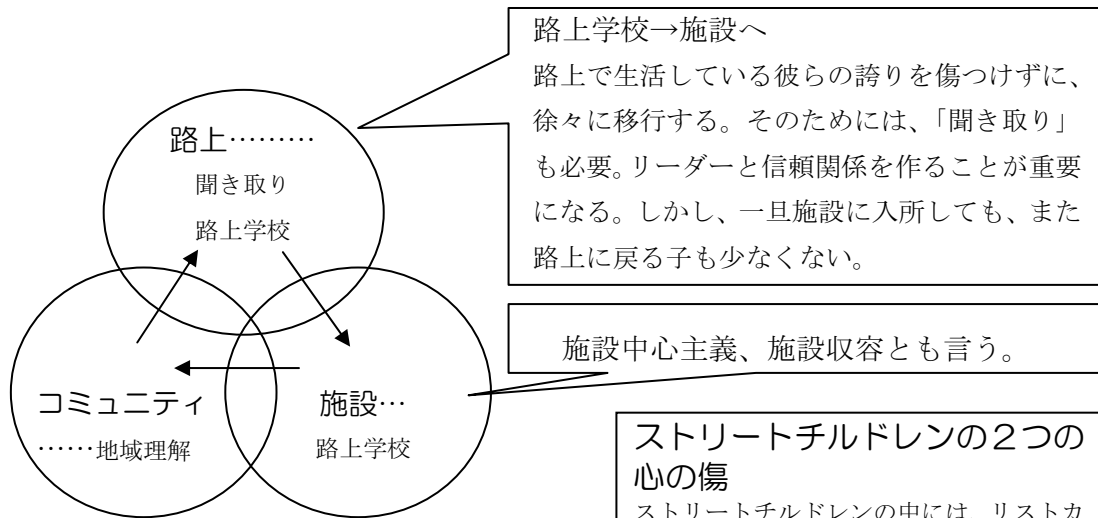
『問題分析・解決アプローチ』 「サブカルチャー尊重主義」と「施設収容主義」

「子ども自身が問題を解決していく」という視点から考えると、フィリピンでも、ブラジルでも、バングラデシュでも、パターンがよく似ています。

1つは、「ストリートベース」という路上でいることを大切にする「サブカルチャー尊重主義」です。

「路上で働いている」という誇りを傷つけないというパターンです。

たとえ年齢が若くても、11、12、13歳と3年の間、「俺は稼いで生きてきた」という誇りを持っている子を、「可哀想だからすぐに施設に入れる」というのは、なかなか難しいのです。



なかには、過去に、親から虐待を受けたとか、路上でおとなからだまされたというので「おとなに対する不信感」を持った子もいます。そうした心の傷があるために、すぐには、福祉施設には来てくれません。ですから、十分な「信頼関係作り」「人間関係作り」をしなければならないのです。そのためには、まず、「聞き取り」とか「路上学校」を実施し、「ストリートスクール」ということで、少しずつ慣れてもらうようにします。少し慣れてきたら、「一度、駆け込み寺にきてみたら」と、福祉施設にというステップを経なければなりません。朝起きて歯を磨くとか、顔を洗うという生活に馴れてから、職業訓練だとか、学校だとかという話になっていきます。しかし、この途中で、「路上に戻る子」も少なくありません。元に戻る人が多いんです。

このことは、ベースとなるコミュニティの重要性を示唆しています。地域の理解が必要なのです。特に、「母子家庭の保育所作り」つまり、お母さんのための保育所作りや、遊び場、お母さんの積み立て貯金といったことも必要なわけです。

結局は、この3つの要素が相互に関連しているということです。

実は、このビデオには続編があり、子どもたちが、「悩みの相談」をしあっています。同じ立場の子同士が、例えば、「お金とられた時、どうしてる？」というような相談をしていたり、「たまには遠足行きたい」というような話し合いをしています。そこで、

ストリートチルドレンの2つの心の傷

ストリートチルドレンの中には、リストカットをして、「血がずっと流れている間だけは嫌なことが忘れられる」という女の子もいます。

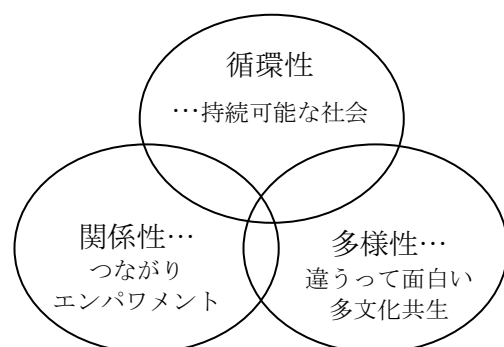
ストリートチルドレンの多くは、親の虐待などの家庭でのさまざまな問題と、路上で経験したさまざまな辛い体験といった、路上での問題との、2つの心の傷を負っている。そのために、おとなへの不信感が大きいことを理解しなければならない。

遠足を企画して、子どもたちと一緒にいく、あるいは、周りの人たちに、自分たちが「どうしてここへやって来たか」を伝えるような演劇を、みんなの前でするというようなことをしています。インドでは、そういった子どもたちが壁新聞を作ったり、労働組合を作ったりということまでしています。

ここで、一つ、援助方法で抜けているとしたら「子ども自身によく聴く」という「心の傷のためのカウンセリング」。それから、「子どもたちの話し合いの場」というのが必要だということです。やはり遊びも大事です。

「豊かさ」とは・・・【私と出会う・わたしとあなた】

実は、子どもたちの今の現実世界というのが、私たちが「こうだと思っている世界」と違うかもしれないのです。今回、開発教育協会から改訂版「バングラデシュの貧困と開発」を考えるとというテキストが出ました。そこに載せられている「バングラデシュを救う方法」というランキングをやってみたところ、今の子どもたちは、「物や、お金を資金協力する」という項目を、上位にランキングしません。彼らには、貧しいということが、物が欠乏している状態だと思えないという現実があります。私には、ご飯がないとか、お金がないとか、家がないというのが、貧しいというイメージとしてあるのですが、彼らからすると、事前学習で見た、村で家族が一緒にご飯を食べている風景を見て、「向こうの方が豊かやんか」というふうに感じるのです。日本には、そうしたことを豊かさだと思う子どもが増えてきているということです。そこに、今までの教材を見直す必要性が生じているのです。



豊かさ 図1

フリードマン（元国連専門家）という人が、「貧困とは欠乏ではなく剥奪である」「何かが欠けていることではなく、本来あるものが、奪われている状態だ」と言っています。これを、中村尚司さん（龍谷大学経済学部教授）は、「豊かさ」とはこの3つ（循環性・関係性・多様性）が総合的にあることだと言っています。

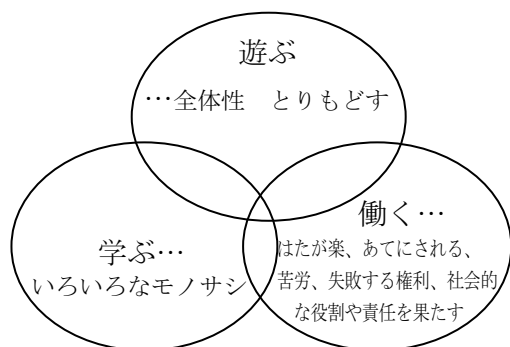
これが、冒頭に言った、「国際理解・協力の目標」と合致しています。物が循環していく、リサイクルしていく、あるいは、人の命と命の繋がりが循環していくというようにすべてが循環していく方が「豊かな」わけです。

もう1つ、今の子どもたちは、いろんな関係不全に陥っているということです。関係が壊れてしまっている中で、豊かな繋がりは築かれません。要するに、子どもたちには力があるけど、それを支える、味方になってくれるおとなが側にいないのかもしれない。だから「豊かな関係が維持されていない」のです。

また、植物も多様なように、人間もいろいろな人がいたほうが豊かなのです。「多様性が欠けている」ために、自殺が増えたり、閉鎖病棟で管理されている精神障害の人が増えたりということがあるのだと思います。こうした基準で日本を計ることができれば、結構、いろいろな課題が見えてくるのではないかと私は考えています。

子ども時代は、この3つが私は総合的にあるのがいいと思っています。

子どもにも働く権利がある・・【多文化共生・内なる国際化】



子ども時代 図2

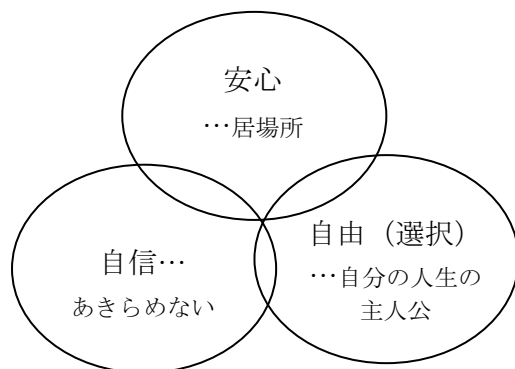
と言い換えることができるかもしれません。祭りに参加する、お手伝いをするというように、社会的な役割と責任を担えることが、権利にとって必要なのです。ところが、現実の今の日本の子どもたちは、「何もしなくていい」というように、あまりにも「あてにされる機会」に恵まれません。学ぶことだけが一つの物差しになってしまっているのです。親も、学校も、地域も、塾も、子どもを見る物差しが1つになっています。だから、子どもは「息苦しい」「無視されている」といったところに追い込まれているのだらうと思います。

遊びを作る、生産に関わる、いろんな職人さんから学ぶなどということを、今の子どもはしません。物を買う（消費者）、情報をうまくやりとりする（受信）ということによって自己実現をしているのです。

子どもたちは、大地をふみしめて踊ったり、バンドをするということもやってみたいのではないのでしょうか。私がストリートダンスを企画したときに感じたことは、「自分がこの大地に生きている」という感覚を取り戻したくて子どもは踊っているのではないかということです。

今は、安心できずに、自信が持てずに、選べない状態で、学ばされているのです。

例えば、15歳を過ぎた子どもにとっては、「何もしなくていい」というのが、安心できない、自信を持てない、選べない状態なのです。



けんり 図3

「お前には、何も出来ないのだから、勝手に遊んどけ」というのも、要するに、この3つ（遊ぶ・学ぶ・働く）のバランスがくずれ、どれか1つに偏っている状態を意味しています。

今言ったようなことは、実は私が発見した結論ではありません。インドの子どもと日本の子どもの交流の中で

みちびき出されたものです。

インドの働いている子どもと、日本の不登校の子どもたちが議論したとき当初は話が全くかみ合いませんでした。不登校の子が涙ながらに、私は「なぜ学校に行かなかったか」と語っても、インドの子どもには、「はあ？」という感じでしか受けとめられませ

ん。一方、インドの子どもの、「みなさん何をして働いているんですか」という問いかけに、日本の子どもたちは答えられません。子どもの権利に関するカードのランキングでも、日本の子どもは、教育といったカードをどんどん捨ててしまいます。こういうことで、どうもかみ合わなかったのです。

ところが、このかみ合わない子どもたちが、共通点を見い出します。それは、「不安な状態」「自信が持てない状態」「選べない状態」ということです。インドの子どもの問題と日本の子どもの問題は表れ方が違うだけで、その3つの部分は同じなのではないか、という気づきです。

例えば、私がある高校でストリートチルドレンの話をしたとき家庭での虐待や路上でのつらい体験からリストカットをくりかえす女の子がいる、という話をするとすごく共感をもって感想文を書いてくれる生徒がいます。

彼らは路上で暮らすという状況が理解できなくても気持ちの部分でバングラデシュの子どもとの共通点を見い出すようです。

私が本日のワークショップで何度も「気持ちを深めていただきたい」と申し上げているのは、そのあたりにあります。「気持ちを聴いてもらってない」という子どもの権利の視点に立つことが日本の子どもとバングラデシュなど南の国の子どもをつなぐ手がかりかなあと思うからです。

ぜひ本日参加されたみなさんも「子どもの権利」の視点から日本の子どもが元気になるための国際理解教育というものを、これからもどんどん展開していただきたいと思います。ありがとうございました。



「国際理解教育をすすめるためには」

～知ることから行動へ・地球市民を育てる～

子どもの人権ファシリテーター（促進役）

浜田進士

1、なぜ国際理解なの？（5つの国際化）

（1）経済の国際化～ハンバーガーから世界が見える～

イッツ ア スモール ワールド 世の中狭いネ！

モノ・カネ・エネルギー・情報・ゴミが縦横に行き交う世界

（2）ヒトの国際化

海外へ出かけていく人、海外からやってくる人

海外で暮らす人、日本で暮らす多様な文化を持つ人々

（3）問題の国際化

グローバル化 その矛盾は外部化、不可視化

環境破壊、貧困、人口増加 3つの悪循環が社会不安を

子どもや性など様々な人権問題が国境を越えて発生している。テロ・エイズ・貧困など

（4）制度の国際化～地球的諸課題の解決へ様々な試み

国際機関や条約が、流通あるいは流通から派生する様々な結果をコントロールする

ために存在（国際政治にかかわること） ヨハネスブルグの環境と開発サミット

実体的な国際化に、制度的国際化についての認識と取り組みの側面がまだ整っていない。

（5）意識としての国際化～地球市民の育成～

国益から人類益・地球益へ グローバル＆ローカルな視野で考える人を育てる

WEという言葉の意味を広げていく 「個の確立」と「共に生きる」

2、国際理解教育 地球市民を育てる教育とは？

限りある資源のもとで、人種、文化的に多様でますます相互依存を深めつつあるこ

の世界で、生きていくために必要な知識・技能・態度を育成することを目的とする学習

*低開発（貧困・人口増加）、多文化、人権、平和、環境などの地球的諸課題

3、子どもの権利をテーマにした総合的な学習の3つのフィールド（配付資料参照）

① 国際的な課題を直接テーマにした総合学習（世界と出会う、世界とつながる）

持続可能な開発のための教育の推進

② 学びの課程で「国際理解」の基礎体力を育もうとする総合学習

（わたしと出会う わたしとあなた わたしとみんな）

（自尊感情、他者共感、コミュニケーション、多様性の受容、参加・協力）

③ 課題をもつ子どもが生きて学ぶ総合学習

（多文化共生、内なる国際化）違いを豊かに

4、国際理解教育の特徴

① つながりを意識する 空間、時間、問題、内面 相互連関性

② 違いを尊重する 多文化共生

③ 未来を展望する

④ 「プロセス」を重視する

⑤ 社会参加を目指す 参加型学習

5、国際理解教育の4つのアプローチ

① 多文化理解アプローチ

多様な文化への興味・関心・理解 3 F（食べ物、衣装、まつり）

多様な価値観がある

② 課題理解アプローチ

貧困、難民、環境破壊、児童労働、子ども買春、ストリートチルドレンの現実を理
解する。見る、聴く、触る、匂う、演じるなど五感をつかって
不正への共感

疑似体験、役割劇、写真を使って

③ 関係理解アプローチ

地球が相互依存関係にあることの理解

わたしたちの暮らしと開発途上国のくらし、食べ物から世界が見える

④ 問題分析・解決アプローチ

参加・行動・未来・変化

対立の解決、問題をこれ以上悪化させないためにわたしたちができることがなんだ
ろう。

国際協力活動への具体的参加

わたしたちの生活の見直し

6、何のための国際理解総合学習なのか？目的？

① 子どもの参加を促進し、教室の子どもたちをエンパワーメントすること

② 持続可能な社会・環境作るためにあきらめずに未来を変えようとする取り組みに参
加すること。その過程と結果 開発途上国の子どもたちの人権が守られていく。

7、子どもの参加の力を総合学習の中ではぐくんでいく

子どもたちの主体的な取り組みを作るために

① 教科学習 → 対話の力

② 国際理解総合学習 → 個別化と自己決定 テーマ別学習

③ 学校行事 → 総合化と参加 表現活動

おとなと子どもがしっかりと課題を発見していく

以上

資 料

くろーかる ネット し が
「国際理解教育研究会 Glocal net Shiga」

(財)滋賀県国際協会は「国際理解教育研究会 Glocal net Shiga (くろーかる ネット し が)」を平成15年(2003年)4月に立ち上げ、毎月1回、日曜日に例会を開催しております。

- 地球上には、自国文化を含め、さまざまな生活・文化等があることを知り、多様性を受け入れること 多様性の尊重
- 地域には、さまざまな文化背景や価値観等をもつ人びとがともに暮らしていることを認識し、多文化共生の意識を育むこと 多文化共生社会づくり
- 世界と自分はつながっていること、自分たちの生活と地球のどこかで起こっている問題が密接につながっていることを理解すること 相互依存関係の理解
- 地球的課題を解決するために行動すること 公正・平和な社会づくり
など

以上ををねらいとして、さまざまな実践方法（おもに参加型学習法）を学びながら、国際理解教育を促進することを目的としています。教育関係者・国際協力 NGO 関係者・外国籍住民・地域国際協会関係者、学生、青年海外協力隊ＯＶなど、42名のさまざまな立場や経歴の持ち主が参加しています。これまでに滋賀県の特徴を生かした題材をとらえ、「ブラジルボックス」「カルタ“わたしん家の食事から”」などの教材を開発してきました。また、より多くの方に国際理解教育を体験していただくよう年数回、国際理解教育ワークショップを開催しております。今後も幅広い知識や情報の交換を行い、より深みのある内容を取り上げていきたいと考えています。

研究会17年度活動内容

開催日	内 容
4/24	国際理解教育食文化教材製作①（試作品体験、改良プランづくり）
5/22	国際理解教育食文化教材製作②（リソースパーソンへのインタビュー内容について） ブラジルボックス改良について（解説書、追加アイテムなど）
6/25	国際理解教育食文化教材製作③（第1回調理実習＆インタビュー実施） 参加リソースパーソン国：アメリカ、イタリア、中国湖南省、ドイツ、ニュージーランド、ベルギー
7/17	国際理解教育食文化教材製作④（第2回調理実習＆インタビュー実施） 参加リソースパーソン国：ブラジル、韓国、バングラデシュ、中国北京、台湾、エジプト
8/9	国際理解教育ワークショップ「地球市民を地域とともに育てよう part4」 アジアの子どもたちについてのワークショップ体験 ファシリテーター：浜田 進士さん
8/28	国際理解教育食文化教材製作⑤ 教材化作業（インタビューのまとめ、質問カードの作成）
9/25	国際理解教育食文化教材製作⑥ 教材化作業（情報カード・答えカードの作成）
10/23	国際理解教育食文化教材製作⑦ 教材化作業（試作品体験、改良）
11/27	国際理解教育食文化教材製作⑧ 教材化作業（ファシリテーター用資料づくり、試作品体験、改良）
12/18	国際理解教育食文化教材製作⑨ 教材化作業（ファシリテーター用資料づくり、試作品体験、改良 教材名決定） 滋賀県総合教育センター「10年経験者研修」についての話し合い ガールスカウトのファシリテーター要請について
1/15	滋賀県総合教育センター「10年経験者研修」についての話し合い （教材最終チェック、研修の流れについて） 2月26日開催ワークショップに向けての話し合い アクティビティ体験「難民ゲーム」
1/17	滋賀県総合教育センター「10年経験者研修」にて 「カルタ“わたしん家(ち)の食事から”実践 ファシリテーター：Glocal net Shiga
2/19	ガールスカウト「peace thinking day」にて ファシリテーター：Glocal net Shiga 「無人島ゲーム」「世界がもし 100 人の村だったら」「難民ゲーム」実践
2/25	滋賀県青少年室事業「We're the World!!」交流会にて 「カルタ“わたしん家(ち)の食事から”実践 ファシリテーター：Glocal net Shiga
2/26	国際理解教育公開ワークショップ「カルタ“わたしん家(ち)の食事から”を通じて多文化共生を考える 公開！ カルタ“わたしん家(ち)の食事から ファシリテーター：Glocal net Shiga 学校 & 地域でつくる多文化共生社会 国際理解教育センター事務局長 角田 尚子さん
3/26	今年度の活動についてふりかえり 来年度活動計画について話し合い

活 動 風 景

国際理解教育食文化教材製作



調理実習



インタビュー

1 月 17 日 滋賀県総合教育センター「10年経験者研修」



「カルタ“わたしん家(ち)の食事から」



外国人児童生徒の現状を紹介

2 月 19 日 ガールスカウト「peace thinking day」 「We're the World!!」交流会にて



「難民ゲーム」中高生によるブレインストーミング

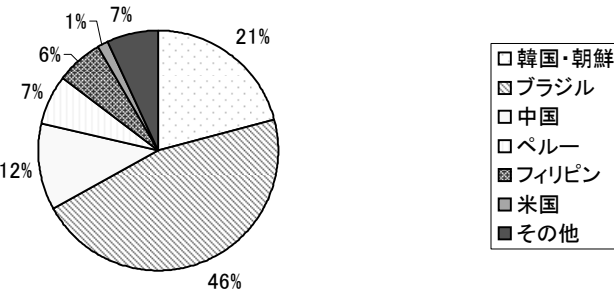


Glocal net Shiga 活動紹介

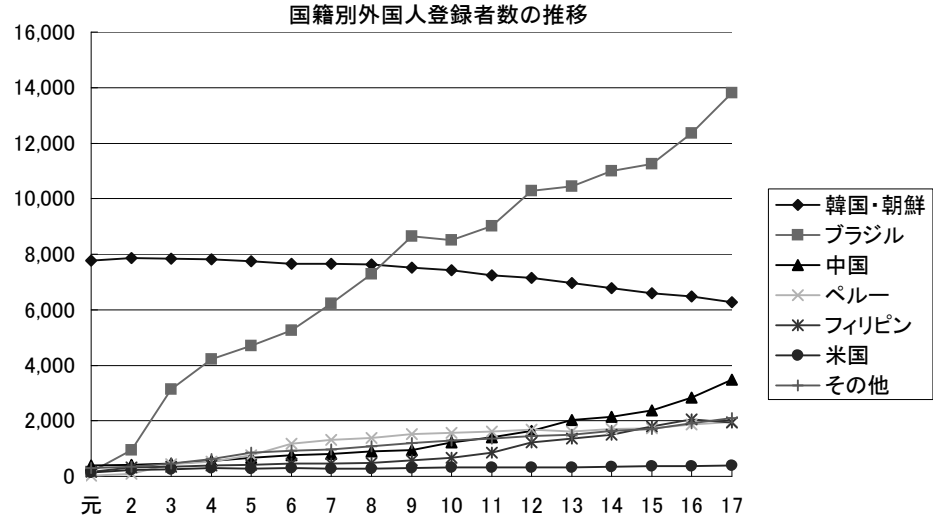
滋賀県における外国人登録者数

財団法人滋賀県国際協会 作成

平成17年12月末現在 国籍別外国人登録者数



国 籍	登録者数
韓国・朝鮮	6,280 人
ブラジル	13,818 人
中国	3,479 人
ペルー	1,966 人
フィリピン	1,948 人
米国	403 人
その他	2,101 人
合計	29,995 人



外国人登録者数の比率が2%以上の市町村（平成17年12月末現在）

	市町村名	外国人登録者数	総人口	外国人比率	備考(上位3国籍)
1	愛知川町	1,047	12,044	8.69	ブラジル708人、中国109人、韓国・朝鮮85人
2	長浜市	3,869	62,969	6.14	ブラジル2,580人、ペルー388人、フィリピン256人
3	湖南市	3,179	56,146	5.66	ブラジル1,935人、韓国・朝鮮429人、ペルー428人
4	東近江市	3,234	79,196	4.08	ブラジル2,272人、フィリピン240人、中国224人
5	甲賀市	2,909	95,279	3.05	ブラジル1,670人、韓国・朝鮮340人、ペルー311人
6	能登川町	593	23,318	2.54	ブラジル356人、韓国・朝鮮111人、中国45人
7	栗東市	1,376	61,596	2.23	ブラジル520人、韓国・朝鮮270人、ペルー223人、
8	安土町	272	12,481	2.18	ブラジル184人、韓国・朝鮮42人、コロンビア10人
9	彦根市	2,262	110,212	2.05	ブラジル769人、中国 523人、フィリピン316人
	県全体	29,995	1,393,193	2.15	

※滋賀県商工観光労働部国際課の調査に基づく。
※県民46人に1人が外国人

国際理解・開発教育教材の紹介および貸し出し規定について

(財)滋賀県国際協会

当協会では、国際理解教育および開発教育に関する資料・教材（ビデオ、CD-ROM 等も含む）、韓国文化に関する絵本・パネルなど 315 点（H17 年度末現在）所蔵しており、自由に閲覧・視聴することができますので、お気軽にご利用ください。

なお、当協会ホームページからも教材目録、貸出申請書様式が入手できます。

<http://www.s-i-a.or.jp/globalnetshiga/kyouzai/kitei.html>

<利用について>

- 閲覧・視聴 どなたでもご自由にご利用いただけます。
ただし、事務所に保管しておりますので、閲覧を希望される場合は、職員にその旨お伝えください。
- 利用時間 **日曜日**から**金曜日**まで（休日を除く） 午前 9 時から午後 5 時まで
- 貸 出 原則として、会員および団体（学校を含む）に限ります。
所定の貸出申込書にご記入の上、当協会窓口にご提出ください。

貸出期間：2 週間以内（申請により期間延長可能）

貸出冊数：1 回 5 点以内

- 返 却 当協会窓口まで直接ご返却ください。やむを得ないと認められる場合は、借受側の料金負担のもとに郵送・託送を認めます。
なお、破損、紛失の場合は実費をご負担いただきます。



貸出教材の一部

ふれあいのページ

ぐろーかるねっとしが



▲食文化の違いなどを教
える教材「カルタ」を学
ぶ公開講座の参加者（大
津市の三ツボしがりで）



もって来...

「歴史を真に物と見て、生活習慣の真実を外国の人たちと互いの文化を理解し尊重し、また多文化共生社会をつくり出す」という国際理解教育研究会、3年前開校の教職員と国際協力NGO、非政府機関のメンバーによって編成し、現在、高校生と県在住の外国人と18歳から70歳代の39人が加入する。月1回、県内各地を巡行会を開き、学校での授業と地域活動とを、教材を音楽、公民権講座を聞くなどしている。

通称は「ぐーがさねーしが」(Global net Shiga)。グローバル(Global)とローカル(Local)を合わせた造語で「滋賀で暮らす人々を結び、地球市民をよこむ活動」その思いを込めている。

1884年にはつるしの生涯は日
 系通信の歴史を著してふたつき雑誌に「つ
 るし米子」を著して、書中に生れ外
 國人の初等教育がうしろ人びとになら
 ず、歐州の米・中學校を卒業してゐる
 今年生員をテークしては教師「カクタ
 ー」をたゝ家の専事から」を建議した。
 「つるし人の児童、母國文化を綴りし
 ことを使ひ、機業と母國の文化を綴りし
 た時を思ひ出し、おり、母國の文化と
 土語のな 益をて高島市立生中學校長
 の山崎成三氏に。カクターには「テ
 ークを遊び、学校給食など」を母國
 の児童・生徒の資料と、少教員の立場
 異文化を定めて」と思ひ教員の立場。
 昨生員からテークを出し、料理集
 め。中国、エジプト、ペルシア、スエ
 ド、エ、アフリカなどからの人々に調製
 して、食文化と習慣を調査し、約10
 日ほどたつた。

遊び方は、国別の章に開示の情報カードに準じて、読み札(質問)に合致し札(答)

食のカルタで
異文化学ぶ

教材の開発や公開講座



えを遣ふ。「荷物の時には何を飲みますか?」の質問には「コーラを飲む」や「水を飲む」など。答は一つとは限らない。試作品を授業で使った東京都立東横田中学校の北川謙治教諭(44)は「国や個人で通うことに気づくのが目的。楽しく学べる教材です」と語った。

「大学でも実践したい」と意気込むのは、慈恵大学大学院教育学研究科の河瀬さやかさん(24)。昨年、海外青年協力隊で滞在した経験から帰国した後に入会した立命館大学大学院教育学研究科の市木尚利さん(28)は「異文化について学んだことを会の活動に生かしたい」と話した。

教材は無料で貸し出し、講師派遣の相談に乗る。問い合わせは、大津市におの病の「アサ淡海内の県国際協会（077・526・0931）」へ。

「アザルボックス」を使った授業風景（2004年12月、守山市の市立守山南中学校で）



多文化共生社会づくりを目指し活動するメンバー（前列左から、河端さやかさん、市木尚利さん、川崎さん、岡佑里さん。後列左から、大塚真由美さん、平野知見さん、北川謙治さん、坂下靖子さん）

■ ■ ■ 県内の外国人登録者数 ■ ■ ■
県国際課のまとめでは、2004年12月末現在で、県内
外国人登録者数は2万7863人（82か国）。県民50人
に1人の割合になる。内訳はブラジル45%、アメリカ
23%、中国10%、ペルー・フィリピン7%、アメリ
カ13%、その他7%。

1990年の入国管理法の一部改正などによって、日系の南米出身者の来日が増加した。県でも多民族・多文化社会が広がっている。

ワイド 滋賀ニュース

外国籍の子の立場ゲームで疑似体験

国際理解へ食文化かるた

大津の市民団体製作

多様さ知って



市民グループ「国際教育研究会Glocal net Shiga」(川崎功会長)は、遊びを通して外国籍の子どもの立場を理解しようと作った教材「カルタ、わたしん家の食事から」を六月から販売する。

同グループは県国際協会(大津市)に事務局があり、国際理解を深める活動をしている。学校給食など日本の食事になじまない外国籍の児童や生徒は滋賀にもたくさんいるという。かるた製作は、子どもたちにとって立場に気づいてもらうとともに、食物の知識をきっかけに世界の多様な文化を知ってもらう目的で企画した。

かるたは、十二カ国・地域の情報カード、そして質問カードと答えカードの三種類から成る。ブラジルの主食は豆やタロイモ、イスラム圏のバンクラアシユでは、豚肉を口にすることが禁じられている。などと記された情報カードを、国別のグループに分かれて覚える。覚えた内容に沿って読み手が「主食は何ですか」などと記された質問カードを読み上げ、答えカードを取り合う。一番多く答えカードを取った人が別の国のグループに移り、もう一度かるた取りをする。二回目のグループでは、情報カードの知識がないため、答えカードを選ぶのに苦労することになり、外国籍の子どもたちの置かれた状況を「疑似体験」できるといふ。

販売価格は千円。百五十セット作製する。申し

国際理解を深める教材「カルタ、わたしん家の食事から」(大津市国際協会)

申込み、県国際協会 ☎ 77(526)0931 へ。

2006年（平成18年）2月27日 読売新聞

教員ら異文化交流学ぶ

大津で 食テーマのカルタ使い 討論会



オリジナルのカルタ(手前)を楽しんだ後に行われた討論(大津市打出浜の「コラボ21」が)で

異文化交流を行う際の指導に役立つ教材や方法を学ぶ討論会が26日、大津市打出浜の「コラボ21」であり、教員ら約30人が活発に意見を交わした。県内では約3万人の外国籍の子どもたちが暮らしており、異文化

交流を指導している教員や民間団体代表らを養成しようとして、県国際協会が企画した。テーマは、「カルタ『わたしん家の食事から』を通じて多文化共生を考えよう。カルタは、ゲーム感覚で他国の食について知ってもらおうと、市民団体「国際理解教育研究会(グローバルネットシガ)」が作成。12の国や地域について食事に関する質問をし、食材などが描かれた札を取る。

午前中にカルタを楽しんだ後、午後からは討論会。国際理解教育センターの角田尚子・事務局長が、異文化交流のポイントとして「思っていることは言う」「違う意見を否定しない」などを列挙。参加者からも「相手のルールを知る」などの意見が出された。

カルタは小中学校に無料で貸し出しており、販売も予定している。問い合わせは同協会(077・526・0931)へ。

カルタ製作にご協力いただいた方々

王 貴勤／劉 麗芬／久保 恵卿／姜 智娜／ナヒド ルマナ
エサム モハメド アブデラリム／カヴェリエレ パオラ／シュテファニー アルント
クリストファー キャンベル／ブルース マアウガ／奥村 ルシア 克子／トレス 谷口 デボラ
田尾弥生ロザーネ

イラスト

神崎 りか

国際理解教育研究会 ^{ぐろーかる ネット し が} Glocal net Shiga 教材製作グループ

市木 尚利／大塚 成尚／大塚 真由美／大森 容子／岡 佑里子
影山 好江／川崎 功／川嶋 稔彦／川瀬 美智子／河端 さやか
川辺 裕子／北川 謙治／木村 直子／坂下 靖子／富川 和代
西川 良子／西濱 智美／平野 知見／松本 歌織／村上 古都
村田 淳子／メルビル 大矢 恵子／山崎 和子／山本 富美子

(敬称省略・五十音順)

国際理解教育 地球市民を地域とともに育てよう part4 報告書

発行日 平成18年3月
発行 財団法人 滋賀県国際協会
〒520-0801
滋賀県大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
電話 077-526-0931
FAX 077-510-0601
H. P <http://www.s-i-a.or.jp>
Email siamail@mx.biwa.ne.jp



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
やくだてられています。



古紙配合率100%の再生紙を使用しています